くじゅう地区管理運営協議会

令和元年度　活動報告

阿蘇くじゅう国立公園　　長者原ビジターセンター

目次

Ⅰ．長者原ビジターセンター等運営管理業務

１．長者原ビジターセンター利用状況 ・・・・・・・・・・・・ 1
（1）入館者数 ・・・・・・・・・・・・ 1
（2）ハイビジョン映像上映回数 ・・・・・・・・・・・・ 2
２．利用案内と展示・自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・ 3
（1）利用案内と国際化 ・・・・・・・・・・・・ 3
（2）館内展示および自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・ 4
① 常設展示 ・・・・・・・・・・・・ 4
② 企画展示 ・・・・・・・・・・・・ 8
③ 自然ふれあい事業 ・・・・・・・・・・・・10
a）タデ原の自然観察会 ・・・・・・・・・・・・10
b）国立公園レクチャー ・・・・・・・・・・・・11
c）視察研修対応 ・・・・・・・・・・・・12
④ 館内維持管理業務 ・・・・・・・・・・・・12
３．来館者アンケート結果 ・・・・・・・・・・・・13

Ⅱ．教育・普及啓発活動

１．普及啓発活動 ・・・・・・・・・・・・15
（1）遭難事故防止活動 ・・・・・・・・・・・・15
（2）広報活動 ・・・・・・・・・・・・16
２．環境教育活動 ・・・・・・・・・・・・23

Ⅲ．自然環境保全・調査活動

１．自然環境保全活動 ・・・・・・・・・・・・25
２．調査活動 ・・・・・・・・・・・・27

Ⅳ．登山道等管理活動

１．登山道保全活動 ・・・・・・・・・・・・28
２．長者原周辺の美化清掃活動 ・・・・・・・・・・・・29

Ⅴ．その他

１．くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度 ・・・・・・・・・・・・31
２．くじゅう連山の登山道の管理についての会議開催 ・・・・・・・・・・・・31
３．阿蘇くじゅう国立公園内のビジターセンターの連携について ・・・・・・・・・・・・32
４．職員研修実績 ・・・・・・・・・・・・32
５．新聞掲載記事 ・・・・・・・・・・・・33
６．地域の概要 ・・・・・・・・・・・・34
７．運営体制 ・・・・・・・・・・・・35

Ⅰ．長者原ビジターセンター等運営管理業務

１．長者原ビジターセンター利用状況

（1）入館者数

・令和元年度の来館者数は、130,389 人であった（前年度比：約 6%増）。

・入館者数は平成 27 年の熊本地震発生前のピーク時に戻りつつあったが、2 月以降新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日によって変動が大きくなった。5 月は 10 連休のため平成 27 年度並みに入館者が増加し、6 月は例年並みだった。8 月はお盆時期の台風、週末ごとの雨により入館者が減少したが、9 月～11 月は週末ごとに天気のよい日が続いた他、12 月～2 月は積雪がほとんどなく自家用車によるアクセスが比較的容易であったため、入館者数がここ 5 年で最も多かった。

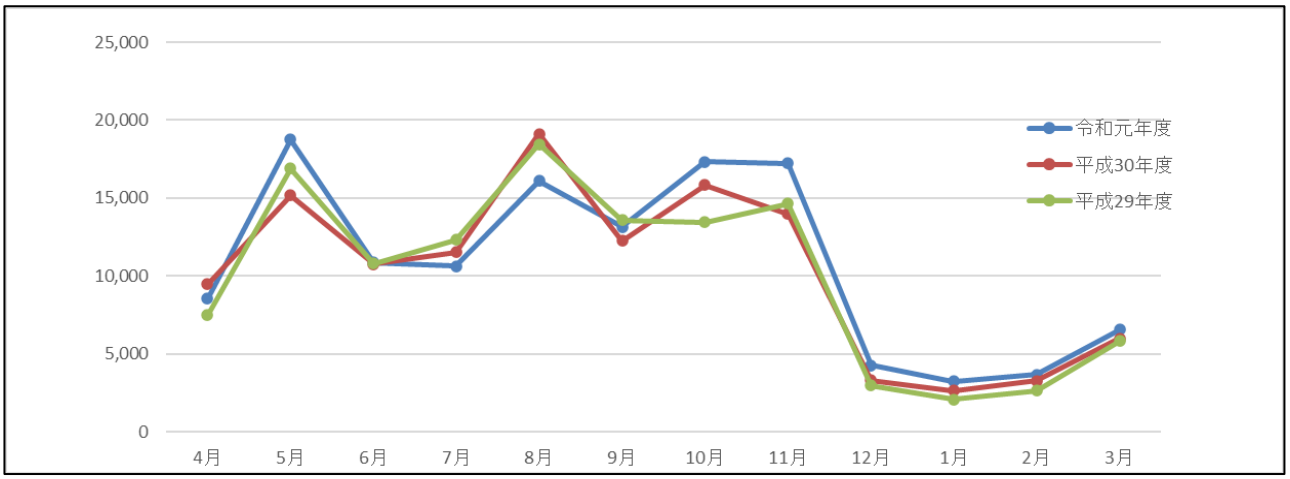
・国立公園満喫プロジェクトを受けて、くじゅう地域の情報発信・案内業務の国際化（英語中心）に努めた。手作り展示も英語併記や英語解説シートを設置するなど、海外の人も楽しめるよう工夫した。インフォメーションカウンターで職員が目視により計数した外国人来館者数は、年間でおよそ 2,500 名であり、来館者全体の 2%であった。ラグビーワールドカップの影響で欧米からの来館者が増え、昨年度の約 1,700 名に比べるとおよそ 1.7 倍になった。

館内利用の様子

来館者数一覧表（平成 29 年度～令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和元年度	8,551	18,756	10,873	10,641	16,102	13,161	17,324	17,234	4,263	3,239	3,671	6,574	130,389
平成30年度	9,482	15,179	10,759	11,536	19,103	12,252	15,820	13,986	3,315	2,657	3,262	5,986	123,337
平成29年度	7,472	16,905	10,798	12,310	18,444	13,596	13,438	14,658	2,964	2,082	2,650	5,846	121,163

来館者数推移（平成 29 年度～令和元年度）



(2) ハイビジョン映像上映回数

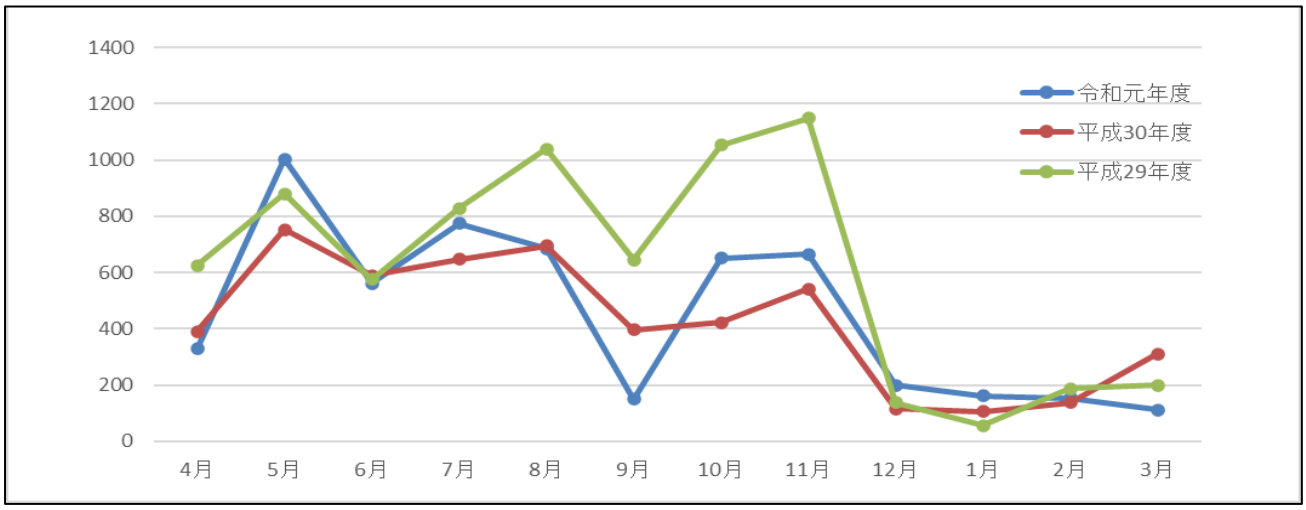
・令和元年度ハイビジョン映像上映回数は 732 回、延べ人数は 5,446 人であった（前年度比：回数 1 増、人数 7%増）。

・外国語字幕での上映は、個人・少人数での利用が増えたために回数は昨年度よりも増えたが、団体ツアーの減少のため人数は 40%減となった。

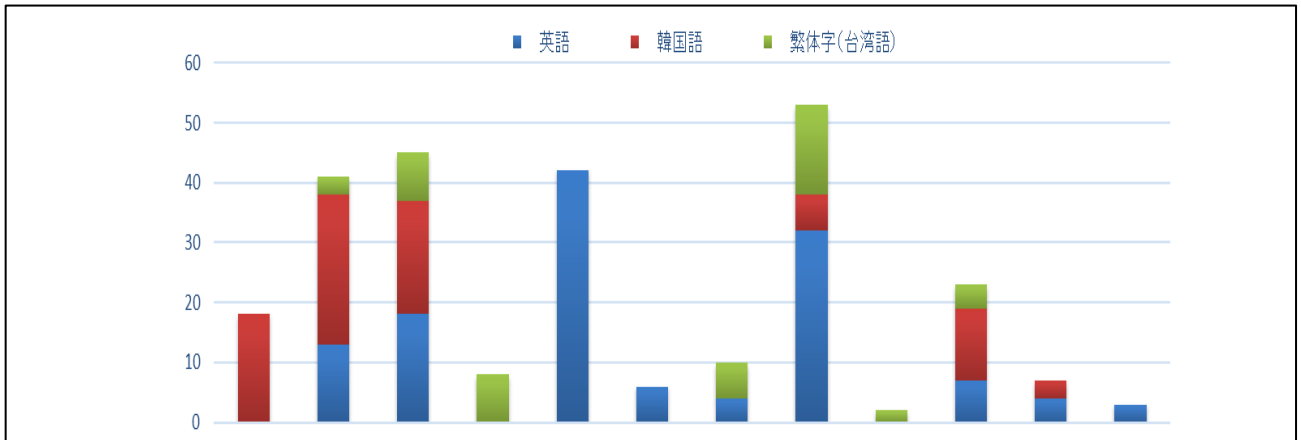
ハイビジョン映像上映人数一覧表（平成 29 年度～令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和元年度	329	1004	561	775	685	149	652	664	200	162	154	111	5,446
平成30年度	390	752	590	647	694	397	422	542	115	105	138	311	5,103
平成29年度	626	880	575	829	1,039	645	1,053	1,149	137	56	187	199	7,375

ハイビジョン映像上映人数推移（平成 29 年度～令和元年度）



外国語上映人数内訳（令和元年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
英語	0	13	18	0	42	6	4	32	0	7	4	3	129
韓国語	18	25	19	0	0	0	0	6	0	12	3	0	83
繁体字(台湾語)	0	3	8	8	0	0	6	15	2	4	0	0	46
合計	18	41	45	8	42	6	10	53	2	23	7	3	258

２．利用案内と展示・自然ふれあい事業

(1) 利用案内と国際化

・長者原ビジターセンター受付カウンターにて、国立公園の利用案内および自然情報等の提供をおこなった。

・英語での利用案内・解説ができる自然解説員を、週 3 日以上配置し、利用案内の国際化に努めた。

・受付カウンターに英語での対応ができることの他、筆談でも案内できることを表示した。

・坊ガツル-雨ケ池方面登山道入り口やスガモリ越え方面の登山道入り口などの長者原周辺の案内地図を作成し、来館者がわかりやすいよう工夫した。

・外国語で案内できるようにするため「POCKETALK」を配備し、英語のみでなく多国言語に対応できるよう案内の充実を図った。

・子どもでも楽しめるような館内アクティビティ（クイズラリー・スタンプラリー・足跡探し等）を設置し、英語版も提供した。

受付カウンターでの利用案内の様子

くじゅう連山自然情報

外国人に対する利用案内の様子

多言語対応が可能なことを受付に掲示

長者原周辺の案内地図

(2) 館内展示および自然ふれあい事業

① 常設展示

・下記の頻度で手作り展示を更新した。手作り展示や館内案内は英語併記をおこない、展示・案内の国際化に努めた。

展示内容		展示箇所	頻度
お知らせコーナー	写真①	2階入口付近	随時
くじゅうの自然写真館	写真②	2階受付付近	月2回
登山のルールとマナー	写真③	2階受付付近	年7回
観光情報コーナー	写真④	2階受付付近	年4回
展望コーナー	写真⑤	2階展望スペース	随時
くじゅう連山自然情報	写真⑥	2階受付付近	随時
実物展示	写真⑦	2階受付付近	随時
ハンズオンコーナー	写真⑧	1階壁面付近	月1回
ワークテーブル	写真⑨	1階及び2階	年5回
くじゅう植物図録	写真⑩	1階野焼きコーナー横	随時
タデ原フィールドガイド	写真⑪	1階入口付近	月2回
キッズコーナー	写真⑫	1階階段横	随時
くじゅうの自然を支える活動	写真⑬	階段ボード	年4回
モニタリングサイト1000里地調査紹介	写真⑭	階段ボード	年4回
チームタデ原活動紹介	写真⑮	階段ボード	年5回

ビジターセンター2階

・2階はメインの入口となっており、来館者の出入りも多いため、自然に関する情報および登山道情報を提供したり、展望を利用した休憩スペースを設置したりしている。また、観光利用者や登山初心者向けに、登山の服装等のマナーや、周辺地域の観光情報等もわかりやすく紹介している。

① お知らせコーナー

センターからのお知らせ等を掲示した。

② くじゅうの自然写真館

くじゅう地域の旬な風景や生きものの写真を展示した。

③ 登山のルールとマナー

登山の初心者向けに、季節ごとの登山の服装や、注意点などの説明をした。

④ 観光情報コーナー

国立公園周辺の見どころ等を、カケスマップ（周辺観光マップ）や写真などを使って紹介した。

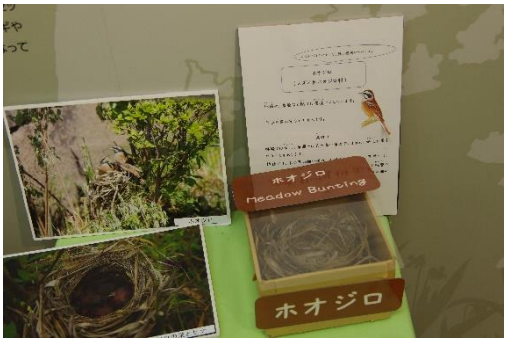
⑤　展望コーナー

雄大な景色を眺めながらゆっくりできるコーナー。書籍や新聞を置いて、ソファーに座ってくつろいでもらえるようにした。

⑥　くじゅう連山自然情報

マンサクやミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報など問い合わせの多いものを館内に掲示した。

⑦-1 実物展示



⑦-2 実物展示

タカハヤやホオジロの巣などの実物を置き、来館者が季節を感じたり、小さな発見をしたりできるコーナーを設置した。特にタカハヤの実物展示は来館者が立ち止まって観察する様子がみられ、楽しんでいた。

ビジターセンター1階

・1階は、滞在時間が十分にある来館者が多く、タデ原湿原木道やくじゅう連山登山道につながる出入口となっているため、タデ原やくじゅう連山についての詳しい自然解説内容を展示した。

⑧　ハンズオンコーナー

実物に触ってみることが出来るハンズオンコーナー。くじゅうに生息する動物の剥製や鳥の巣、紅葉の情報、マンサクの花のつくりなどを紹介した。

⑨　ワークテーブル

来館者参加型の展示。紅葉の葉っぱ作りや、昆虫の切り絵、七夕飾り作りなどを行った。子どもから大人まで楽しそうに工作していた。

⑩　くじゅうの植物図録

くじゅう地域のボランティア団体、「九重の自然を守る会」が作成した植物図録を、職員が季節ごとに入れ替えて展示した。

⑪　タデ原フィールドガイド

今見られる植物や動物などを、楽しみ方の幅を広げる職員手づくりの解説付きで紹介した。

⑫　キッズコーナー

自然関係の絵本やパズルなどを置き、子どもや親子連れがゆっくり遊べるコーナーにした。

階段

・2 階の入り口から入ってきた来館者が、タデ原湿原や館内トイレに向かう動線上に階段があり、多くの来館者が自然と展示を目にする場所であることから、くじゅうで行われている自然保護活動等を普及啓発する内容を展示した。

⑬　くじゅうの自然を支える活動

「飯田高原野焼き実行委員会」による野焼きや「パークボランティアの会」の活動、登山道整備活動など、くじゅう連山で行われた自然保護活動を紹介した。

⑭　モニタリングサイト 1000

「九重の自然を守る会」がタデ原で行っている植物モニタリング調査の様子を紹介した。

⑮　チームタデ原活動紹介

九重町の小中学生が参加する「チームタデ原」の活動を紹介した。

クイズラリー・スタンプラリー

・来館者が目的をもって展示を楽しめるように企画したアクティビティ。特に、子どもたちが喜んで参加していた。参加者数はクイズラリーが 1,627 人、スタンプラリーが 1,315 人であった。

・学校や青少年団体での利用者にとても喜ばれた。

・シートは日本語と英語の２種類を用意した。

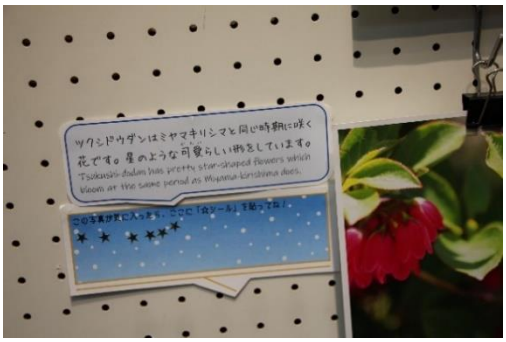
・できたものを受付でチェックし、オリジナルシールをプレゼントした。

クイズラリー・スタンプラリー
シート配布の様子

クイズラリー・スタンプラリーの参加者の様子

展示の国際化対応

・手づくり展示については英語での解説を作成し、国際化への対応に努めた。



② 企画展示

ラムサール条約登録湿地・タデ原湿原

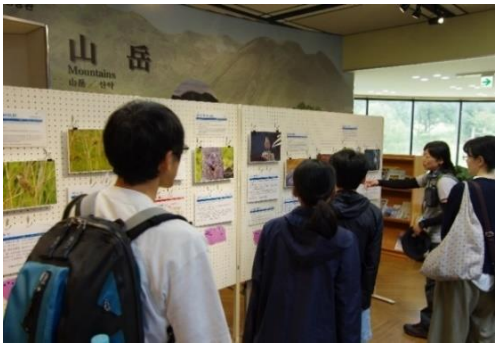
実施期間：平成 31 年 4 月～令和元年 7 月

多くの来館者の目的地ともなっているタデ原湿原について、周辺を含む立体地図を作成し、湿原の成り立ちや地形の特徴についてわかりやすく解説した。また、九州内の他のラムサール条約登録湿地についても写真と解説を展示した。主な解説には英語の説明を加え、外国の方にも理解できるようにした。

タデ原湿原の立体模型は、木道の位置やタデ原の広がりなどが視覚的にとらえやすく好評だった。来館者はタデ原湿原周辺の海抜や湿原への水の流れなどについて理解を深めたようだった。坊ガツル湿原についても同様の模型を作成してはどうかという声があった。

「くじゅうの野鳥」

実施期間：令和元年 7 月～令和元年 9 月



夏の時期にくじゅう周辺で見られる野鳥 34 種を、写真と解説でわかりやすく紹介した。写真の大半は日本野鳥の会大分支部の後藤氏より借用し、解説は英文併記で職員が作成したうえで、後藤氏に監修していただいた。簡単なクイズやアンケートなども設置し楽しく観覧できるよう工夫した。

来館者は興味深そうに写真や解説を見ており、詳しい解説まで読み込んでいる人が多いようだった。ビジターセンター職員だけでは写真や資料の収集が難しい分野について、地域の専門家の協力を得ながら展示につなげるという方法のモデルとなるものといえる。

「アクティブ・レンジャー写真展」

実施期間：令和元年 9 月～令和元年 11 月

環境省の協力で、九州内で勤務するアクティブ・レンジャーの撮影による写真展を開催した。九州各地で持ち回り開催された写真展の一環である。

国立公園を中心に、九州の自然をいろいろな視点から捉えた写真を 14 枚のパネルにまとめ、他に 15 種類の野鳥や花などを紹介した。アクティブ・レンジャーならではの写真であり、各地の様子がよくわかる展示となった。

特に九州外からの来館者に好評であり、写真が撮影された場所についての質問もあった。

「ミニ企画展　くじゅうのカエデいろいろ」

実施期間：令和元年 10 月～令和元年 12 月

紅葉が見ごろになる時期に合わせて、くじゅうの代表的なカエデのなかまを紹介するとともに、カエデのなかまの特徴や紅葉のしくみについて解説した。

カエデの紹介には英文も併記した。また、本物のタネとタネの模型を置いて、それらを飛ばして種が回転しながら落ちる様子を観察できるコーナーも設けた。

熱心に眺めている来館者も多く、より詳しくカエデの分類や紅葉のしくみについて知る機会になった。また、子どもたちもタネを飛ばして楽しんでいる様子が見られた。

「写真で振り返る 2019 年」

実施期間：令和元年 12 月～令和 2 年 3 月

2019 年 1 月から 12 月までの間に職員が撮影した写真の中から、各月 4 枚ずつの選りすぐりの写真をコメントとともに展示した。コメントには英文を併記し、気に入った写真にシールを貼るスペースを設けて来館者参加型の展示となるようにした。

写真でくじゅうの一年間を振り返ることができ、感想を言い合いながら眺めたりシールを貼ったりしていた。雪景色や紅葉の写真の人気が高かったようだ。

③ 自然ふれあい事業

a ）タデ原の自然観察会

・令和元年度の自然観察会開催回数は 68 回、参加者数は延べ 801 人。（前年度比：約 7%減）

・九重の自然を守る会の会員がボランティアガイドをおこなう。参加費は無料。

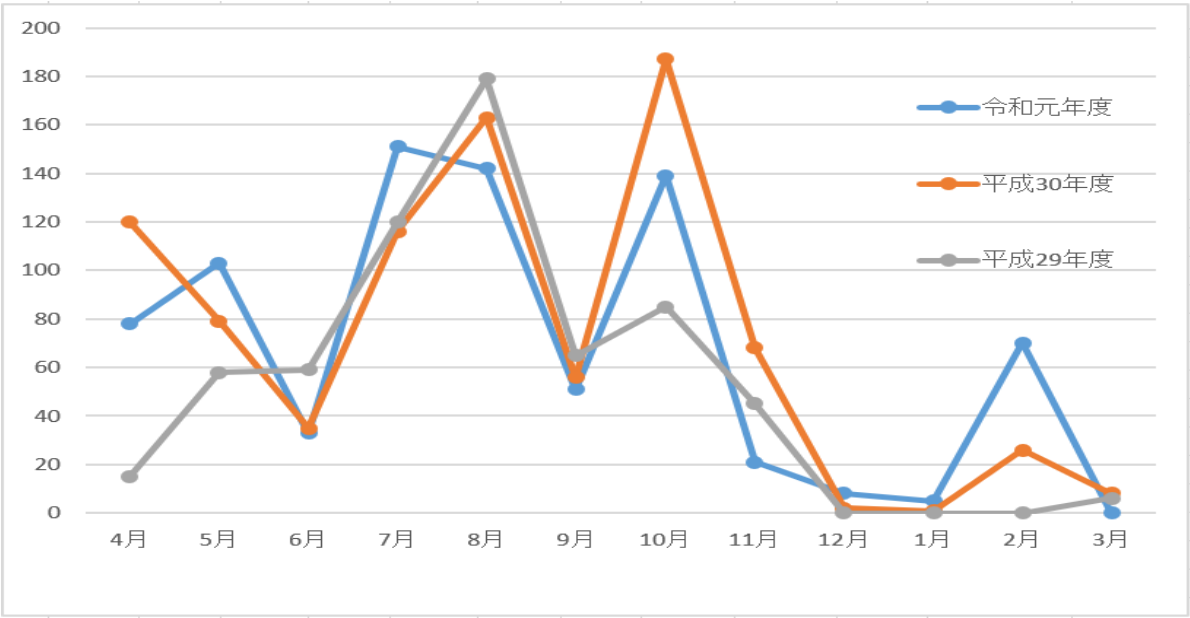
・近年、団体参加者・個人参加者ともにリピーター率が高くなってきている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、3 月は観察会を中止した。今後、新型コロナウイルス感染症による影響が懸念される。

自然観察会の様子

自然観察会参加者数一覧（平成 29 年度～令和元年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
令和元年度	78	103	33	151	142	51	139	21	8	5	70	0	801
平成30年度	120	79	35	116	163	56	187	68	2	1	26	8	861
平成29年度	15	58	59	120	179	65	85	45	0	0	0	6	632

自然観察会参加者数推移（平成 29 年度～令和元年度）



b）国立公園レクチャー

国立公園レクチャー

・ビジターセンターを利用する学校や団体に対し、ビジターセンター職員が国立公園やタデ原湿原について解説を行うもの。参加人数等に応じて、15～30 分程度のレクチャーを行った。

・国立公園レクチャーの受け入れ回数は 19 回、利用者延べ 969 人。（前年度比 18%増）

・団体での国立公園レクチャー依頼が前年度より 8 件増加し、延べ人数も 18%増加した。

・今後は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が懸念される。

国立公園レクチャーの様子

令和元年度 国立公園レクチャー一覧

日にち	曜日	概　　要	参加者
4月18日	木	大分県立中津南高等学校	215
5月14日	火	日田市立三隈中学校	180
5月16日	木	宇佐産業科学高校	22
5月17日	金	日田市立南部中学校	57
5月17日	金	豊後大野市立清川中学校	26
5月19日	日	国東中学校	70
5月23日	木	犬飼中学校	30
5月30日	木	九重町立飯田小学校	9
6月14日	金	由布市立庄内中学校	38
7月9日	火	九重町立飯田小学校６年生	11
7月11日	木	九重町立飯田小学校４年生	12
7月15日	月	久留米中学校	120
7月16日	火	九重町立飯田小学校６年生	11
8月19日	月	宇佐市八幡小学校	39
9月23日	月	野鳥の会北九州支部	18
9月30日	月	安心院中学校	2
10月24日	火	大分県山岳遭難対策協議会	50
1月29日	水	中津市津民小学校	12
2月15日	土	ここのえ緑の探検隊	47
合　　計			969

c）視察研修対応

・行政機関をはじめとする関係者の視察等の受け入れを随時行い、職員が館内展示や阿蘇くじゅう国立公園、タデ原の自然環境などについて解説をおこなった。

・関係機関からの視察が多かった。

・令和元年度の受け入れ回数は 13 回、利用者数は延べ 88 人と前年度より増加した。

中国福建省林業交流訪日団　視察

公益財団法人阿蘇グリーンストック　視察

令和元年度視察研修受け入れ事業一覧

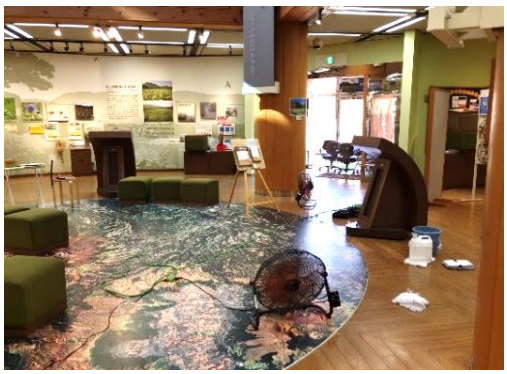
実施月日	曜日	概　　要	参加者
4月16日	火	APU及び鹿児島大学	6
6月3日	月	アジア太平洋大学(APU)	13
6月21日	金	ビューティーオブジャパン	1
7月21日	日	大分県植物研究会	3
7月30日	火	JTB福岡支店	3
9月30日	月	中国福建省林業交流訪日団	8
10月13日	日	有明海ぐるりんネット	10
11月12日	火	佐世保市議会	20
11月22日	金	環境省本省	2
12月3日	火	九重町、ツーリズム大分	8
12月19日	木	一般財団法人セブン・イレブン記念財団	10
12月19日	木	土佐清水市役所	2
12月24日	火	公益財団法人阿蘇グリーンストック	2
合　計			88

④ 館内維持管理業務

・ビジターセンター館内は、閉館後にゴミ拾い、床のモップがけ、館内トイレ清掃を毎日実施した。

・年 1 回の清掃業者による特別清掃（ワックスがけ等）を、2 月に実施した。

日常清掃の様子



特別清掃の様子

３．来館者アンケート結果

2019 年 4 月 30 日～5 月 5 日、10 月 26 日～11 月 4 日に来館者アンケートを実施し、合計 212 名から回答を得た。以下の結果は２回の調査の合算である。

(1)　回答者について

福岡県	大分県	熊本県	九州中四国	関西	中部以東
23.6%	17.5%	6.6%	25.9%	8.5%	17.9%

20 歳未満	20 歳～39 歳	40 歳～59 歳	60 歳以上
9.9%	13.2%	42.9%	34.0%

(2)　長者原を訪れた目的【複数回答】

タデ原の散策	登山	ビジターセンター	偶然通りがかった	ツアーの一部	その他
52.8%	16.5%	15.6%	15.1%	6.1%	3.8%

(3)　来館回数

はじめて	2～3 回目	4～5 回目	6 回以上
56.9%	18.5%	6.2%	18.5%

(4)　展示内容について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
68.2%	26.1%	5.7%	0%	0%

(5)　職員の対応について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
68.6%	17.6%	13.7%	0%	0%

(6)　館内の設備について

たいへん満足	やや満足	ふつう	やや不満	不満
65.9%	27.5%	6.6%	0%	0%

(7)　知りたい情報について【複数回答】(上位のもののみ)

花と植物	動物	登山情報	歴史や文化	温泉情報	自然を守る活動
47.6%	38.9%	38.9%	26.5%	21.8%	19.9%

(8)　よかった展示について【複数回答】(上位のもののみ)

2F 企画展（タデ原）	2F 自然写真館	2F 企画展(AR 写真展)	2F シアター	2F 登山情報	1F 航空写真/野焼き映像
57.6%	46.5%	38.2%	33.7%	32.7%	28.7%

(9)　回答者の主なコメント（抽象的なもの、重複した内容のものは省略）

【５月】折り紙で花を折るのがとても久しぶりで楽しかったです。くじゅうは自然が豊かだと思います。　/　湿原のことをよく知れてよかったです。ガイドツアーも楽しめました。　/　とても充実した施設で見ごたえがあった。　/　山歩きのあと坊ガツルで見た花の名前を知ることができて良かった。　/　植物の見頃情報が多くありがたい。　/　クイズラリーやスタンプラリーなど子どもが楽しめた。　/　自然観察会はとても丁寧にご対応いただき、ありがたかった。　/　くじゅうや自然のことがよくわかり、子どもたちも楽しめた。　/　行動食や飲み物も扱ってくれるとうれしいです。　/　タデ原へのアプローチとしてとてもよいところだと思います。また来たいです。　/　くじゅうには何度も来たことがあるがビジターセンターもタデ原も知らなかった。素敵なところだったので周囲にも

薦めたい。

【10 月】季節に合わせた展示で何回来ても楽しい。学生さんや子供たちの活動も展示されていてわかりやすい　/　コーヒーカウンターがあったらいいと思う　/　（以前の展示の）九重の好きな山ベスト 10 が面白かった　/　展示内容が入れ替わっていてよい　/　ハイビジョンシアターが見ごたえありました　/　展望室で癒されます　/　トイレがウォシュレットだといいなぁ　/　タデ原散策 60 分コースがわからなかった　/　子供から大人まで楽しめた　/　登山道整備の展示などもっとだして良いと思う　/　写真も美しくよかった

(10)　分析

・前年に比べて、遠方からの来館者および 40～50 代の来館者の割合が増加した。５月の調査が超大型連休中（10 連休）であったことが影響したと考えられる。また、5 月に比べると 10 月の方が、年齢層が高くなる傾向にあった。

・来館目的と知りたい情報については、前年の調査と同様に「タデ原散策」を目的とし「花や植物」の情報を得たいという層が来館者の中心であり、次が「登山」を目的とし「登山情報」を得たいという層であると考えられる。展示も、この点を意識したものとするとよいだろう。

・はじめての来館者が６割近くで最も多いが、近県からは繰り返し訪れているリピーターも多い。リピーターは展示や設備への満足度も高かった。

・展示、職員対応、館内設備についての評価は昨年度と大きく変わらず、おおむね良好であった。今後も維持・改善に努めたい。

・展示については、企画展示や自然を紹介する写真展示の評価が高かった。また、2 階にある展示の評価が高い傾向にあり、1 階の展示については評価が分散した。主な入口が２階であり、アンケートの配布および回収も２階でおこなっていることも関係したと思われる。ハイビジョンシアターや野焼き映像などの動画展示は、年齢が高い層に人気があるようだ。

・スタンプラリーやクイズラリーは、アンケート項目にないものの、感想としてよかったものに挙げる人が多く、好評である。特に家族づれに人気があり、今後も継続したい。

Ⅱ．教育・普及啓発活動

１．普及啓発活動

(1) 遭難事故防止活動

牧ノ戸峠 登山ミニレクチャー

開催日時：令和元年　6 月 2 日（日）7：30～9：30
11 月 3 日（日）7：30～9：30

場所：牧ノ戸峠登山口

・公園利用者への適切な利用促進の一環として、くじゅう連山最大の登山口として利用されている牧ノ戸峠登山口において、「登山ミニレクチャー」を実施し、登山者に対する公園利用マナーの普及啓発を行った。
・呼びかけた内容は、服装点検、持ち物確認、登山道の歩き方（植生保護のため）、ゴミの持ち帰り、下山時刻の確認、山のトイレの利用方法など。同時に登山届を提出するコーナーを設け、登山届の提出を促したほか、スタッフが登山コースの相談にのった。
・今年度も、ミヤマキリシマ繁忙期、紅葉繁忙期に各 1 回実施した。6 月のレクチャーは雨天のため呼びかけのみ行った。紅葉の時期のレクチャーでは多く人が朝早くから登山口に集まっており、呼びかけに応じて登山届の提出に協力をしてくれた。
・ビジターセンター職員のほか、環境省くじゅう管理官事務所、大分県警察本部、大分県自然保護推進室、九重ふるさと自然学校、くじゅうネイチャーガイドクラブの協力があり、各回 4～7 名体制で呼びかけを行うことができた。
・登山届提出を呼びかけることにより、登山計画の不備や、登山地図・ストックキャップ等の準備不足などについてアドバイスをすることができ、安全・適切な登山マナーの認識の向上につながった。

呼びかけの様子（6 月）

登山届を記入する様子（11 月）

（２）広報活動

① くじゅうファンクラブ（くじゅう地区管理運営協議会）ホームページ

令和元年度「最新情報」更新回数 23 回

・平成 28 年度に立ち上げたホームページ上で、くじゅうについての様々な情報提供をおこなった。

・今年はくじゅうファンクラブホームページ内に、新たに当ファンクラブが運営する長者原ビジターセンターの紹介ページや、くじゅうの歩き方をダウンロードできるサイトも開設した。

・これまで通り、「最新情報」のコーナーでは、長者原ビジターセンターからのお知らせのほか、登山道整備活動等の協議会事業の報告や大分県主催の「山のトイレをきれいに使い隊運動」など、くじゅうを守る活動等について紹介した。

② くじゅうファンクラブ　フェイスブック

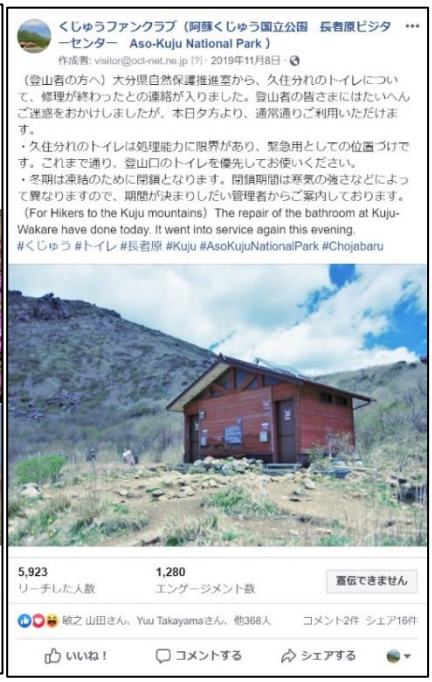
令和元年度投稿回数：88 回

・くじゅう地区の最新の情報を幅広く提供するとともに、くじゅうに関心と持ってもらうことを目的に、フェイスブックに情報を掲載した。

・フォロワーの人数は、年度当初の 4,076 人から令和２年 3 月末には 4,662 人へ 14%増加した。各地のビジターセンターのフェイスブックページでは最大のフォロワー数となっている。

・投稿がタイムラインやシェア・検索などを通じて受け手に表示された数を示す「リーチ数」は、平均すると 1 回の投稿あたり 3,052 回であり、合計でのべ 27 万人弱に情報が届けられたことになる。リーチ数の最大は 7,842 回（5 月 25 日）で、ミヤマキリシマの開花情報、紅葉情報、積雪情報、落石などの登山道情報については特に多くの人が閲覧やシェアをおこなっている。

・英語のコメントやハッシュタグを併記することで、外国人からの反応も継続的にみられている。



③ くじゅうファンクラブ　インスタグラム

令和元年度投稿回数　43 回

・くじゅう地区の美しい写真を通じて、国内外で幅広くくじゅう地区に関心を持ってもらうために、インスタグラムへの投稿を実施した。

・今年も閲覧者が増加すると共に、順調にフォロワー数が伸びていき 600 人を超えた。(前年度比 36%)

・特にミヤマキリシマの時期と紅葉の時期は、「いいね！」が多くなった。

・今後もフォロワー数を伸ばしながら、くじゅうの旬な情報を届けたい。

・英語のハッシュタグをつけるだけでなく、英語でのコメントを併記したことで、外国人利用者からもいいね！の反応があった。くじゅうについての認知度を国内外に高めるために役立ったと考えられる。

④「くじゅうだより」の発行

・くじゅうの自然をより深く理解してもらうことを目的に、年 4 回発行した。ビジターセンター内で配布するほか、くじゅう地区管理運営協議会の各会員施設でも配布した。

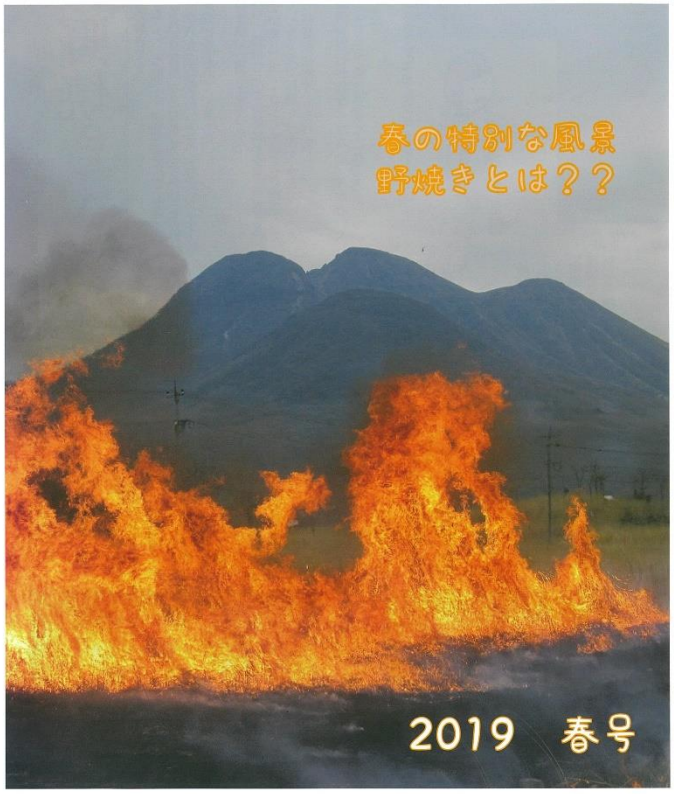
・多くの散策道や登山道に興味を持ってもらえるよう、コース紹介を積極的に行った。

・コース紹介の他に季節ごとのお勧めスポットや植物の紹介もおこなった。

阿蘇くじゅう国立公園長者原ビジターセンターからお届けする

くじゅうだより

TAKE FREE!



くじゅうファンクラブ活動情報

＊平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。　教育・普及啓発　自然環境保全・調査　登山道等維持管理

チームタデ原　寒くても元気に活動中です！

タデ原について学び、発信することを目的に結成されたチームタデ原（九重町の小中学生11名在籍）。2月23日の活動では、タデ原から指山湧水まで歩きながら、冬の自然観察を行いました。

自然観察では木道を歩きながら、植物の冬芽の観察や動物の痕跡などをみつけました。植物の観察では実際に触ってみたり、匂いをかいだりしてみました。動物の痕跡探しで目立ったのは、鹿による被害でした。木の皮が剥がされていたり、角を研いだ後もありました。今後はこういった鹿や他の動物による被害を防ぐことも大切だと感じました。また指山湧水では、中学生とともに本格的な水質検査も行いました。水質検査ではPH、全硬度、CODと3種類おこないました。本格的な調査をする中で、水の温度を計測したり、試薬に入れた水の色が変化する様子をみることができて、改めてタデ原周辺の水について勉強することができました。

これからまた春を迎え多くの花が咲き始め、動物たちも活動を始める時期なので、今回の活動で学んだことを活かしながら今後も有意義な活動をしていきたいと思います。

食害にあった木の観察

指山湧水での水質検査

『くじゅうファンクラブ寄付つきタデ原ガイドツアー』始まります！

4月1日から、(株)JTBが募集する「天空のお花畑タデ原ツアー」が始まります。このツアーでは、くじゅうファンクラブ会員でもある「くじゅうネイチャーガイドクラブ」がタデ原温原を案内します。その際に、参加した人から1人あたり500円が、自然環境保全費としてくじゅうファンクラブに寄付されるしくみです。（寄付金は参加料に含まれています。）

ガイド付きでタデ原を満喫しながら自然環境保全にも役立つことができるこのツアー、申し込みはエース JTB取扱店へご連絡ください。個人参加の他に、団体ツアーとしてプランもあります。

■ツアー開催日：2019年4月～9月の毎週土曜日（8月31日を除く）および4月29日、5月2日
■集合時間：9時50分
■所要時間：2時間　■参加料：1,500円(個人の場合)

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム、国立公園の概要やタデ原温原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

くじゅうの道標をつくっています！

くじゅうファンクラブでは、くじゅう連山の老朽化したり小さくて見づらかったりする道標を交換し、英語表記のあるものに変えるなどの整備をしています。今年度もあらたに2基を整備することになりました。3月中には設置できる見込みです。

道標は、登山者が思い思いに立てるものではなく、本来はその登山道の管理者が整備するものです。しかし、くじゅう連山には、実は「管理者不在」の登山道が多く、そのような場所では、土地の「所有者」の許可をとって、既存の道標を交換する手続きをおこないます。くじゅうファンクラブでは、このような手続きをふんで、登山者が少しでも安全に歩けるよう、お手伝いをしています。

昨年度は、坊ガツル、北千里浜、空池の各分岐に道標を設置（交換）しました。なにぶん高額なので、いちどにたくさんの場所を整備はできませんが、今後もこのような活動を継続して行きたいと考えています！ご支援をお願いします。（写真左：道標設置のようす、右：設置した道標、いずれも昨年）

「長者原地区植物保全協議会」などに出席しています

飯田高原の長者原周辺を通る「やまなみハイウェイ（県道11号）」では、歩道を設置するための拡幅工事が昨年から行われています。この道路の周辺には、飯田高原の植生を特徴づける貴重な植物や景観が残っているため、それらに配慮しながら工事は進められなければなりません。

くじゅうファンクラブは、平成29年度から、この工事にともなう植物の保全を考える「長者原地区植物保全協議会」の委員となっています。九重の自然を守る会のガイドする人気のイベント、毎週日曜・祝日10:00～開催しています（12月～2月は隔週開催）。10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。

（写真：歩道の設置が進むやまなみハイウェイ）

タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会がガイドする人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～開催しています（12月～2月は隔週開催）。10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一口3,000円／年、団体一口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行の他、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左下にQRコード記載）をご覧ください。

くじゅうだより 2019春号

発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154
長者原ビジターセンターホームページ：
http://kyushu.env.go.jp/nature/tyojyabaru/
★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！
https://ja-jp.facebook.com/choujabanvisitor/
★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
http://kujufanclub.com/

リレーエッセイ　スタッフからのーき

江戸時代の「九重山記」に「春は黒色」とあるように、野焼きのあとの黒い大地はくじゅうの春を代表する色です。先日阿蘇市と由布市にまたがる「筋の湯戸温原」を通りがかると、ちょうど野焼きの真最中でした。すすけた煙の臭いに、もう春が来たな～と感じました。野焼きのかおりは、環境省の「かおり風景100選」にも選ばれています。黒い大地には、キスミレやサクラソウなどの春の花が彩をそえます。くじゅうの春を五感で感じに来てみませんか？　（樋村）

長者原ビジターセンターへは・・・

車で、由布院から40分　九重ＩＣから35分　黒川温泉から30分　阿蘇・竹田市街から50分です。

くじゅうの大地を黒く染める

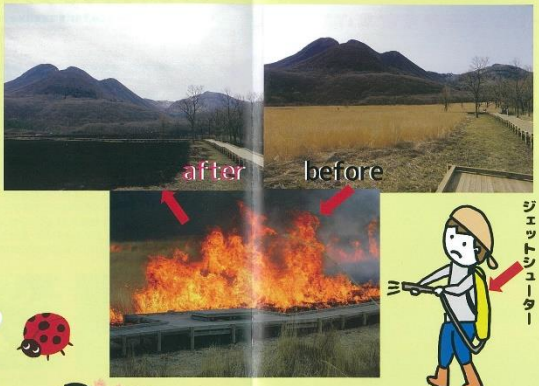
～春の野焼き～

くじゅうの春といえば野焼きです。

黄金色の枯れ野原はあっという間に一面真っ黒になります。くじゅうでは、「春は黒」という言葉があります。それはこの野焼きによって真っ黒に焼かれた「大地の色」と言われています。昔からくじゅうでは野焼きが行われていました。

そもそも何のために野焼きを焼いたのでしょうか？昔は牛や馬を放牧したり、牧畜のための飼料や家の屋根を作る材料として利用されていました。こうして野焼きを継続して行うことが、生活をしていくうえでは当たり前でもあり、人々の暮らしを守るためにも必要な作業でもありました。

今もなお続いている野焼きが行われなくなると、今後どのような変化が生じるのでしょうか？また必要とされる理由についても考えてみたいと思います。



☆野焼きの方法や行う時期☆

野焼きとは、枯れ野原に火を入れる作業のことを言います。

時期は場所によっても違いますが、タデ原温原や泉水山は3月下旬に行われることが多いです。野焼きは夏から秋にかけていくつかの準備をした後、3月の本焼きを迎えます。

まず秋に、防火線切りと言って、野焼きを行う周辺の草を刈り、刈った部分を焼くことで防火帯を作ります。これを行うことで、3月の本焼きの際に、火の延焼を防ぐことができます。タデ原温原では防火線切りを行ったあと、刈った草を寄せる草寄せ作業を行い木道への延焼を防いでいます。

☆野焼きをおこなわなくなったら？☆

①《森林になってしまう…》

草原は野焼きが行われなくなるといずれ木々が生え始め、森林へと変化していきます。しかし野焼きを行うことで、それを防ぐことができます。

②《草原にしかいない生き物が姿を消してしまう…》

森林へと変化した場合、草原という環境でしか生きられない植物や生き物が姿を消してしまいます。ここくじゅうの草原地帯では、たくさんの貴重な植物・【動物】がいます。そういった草原にしかいない貴重な植物などの生息環境を守ることも、野焼きを行う大切な理由になります。

野焼きに関わる人

野焼きは毎年多くの人達の力で行われているのをご存知ですか？

野焼き実行委員会を中心として、地元の自然保護団体、牧野組合、消防団、観光に携わる人などに加えて、ボランティアの人たちなど多くの人が関わって実施できています。単に枯れ野原に火をつければいいというわけではなく、火づけ役と呼ばれる人が、風の流れを読み的確に火をつけます。これも長年野焼きに関わっているからこそできることです。そして細心の注意を払って消していきます。また事故や怪我が起きないように、周りと協力して行うことがとても重要になります。

こうして今後も多くの人たちが野焼きに関わっていくことにより、くじゅうの昔ながらの景観は守られていきます。そしてこれからは、【野焼き】という伝統を若い世代へと引き継いでいくことが必要になってきます。

野焼きのあとに咲く花々

タデ原では野焼き後にたくさんの植物が咲き始めます！なかでも代表的なのがキスミレ！

キスミレは小さくて可愛らしい花ですが、群生で咲くととっても目立って黄色いお花畑のような景色が広がります！泉水山周辺などでたくさん咲くので、春はドライブしながら楽しめます☆

ぜひ春は野焼き後のくじゅうでたくさんの植物を見つけてみてください！

サクラソウ

ハルリンドウ

キスミレ

リュウキンカ

ドライブしながら楽しめるキスミレスポット

さらに詳しく！

地図で示している場所は、くじゅう連山周辺で気軽に見ることができるスポットです！

くじゅうファンクラブ活動情報

＊平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。 教育・普及啓発 / 自然環境保全・調査 / 登山道等維持管理

チームタデ原　猪の瀬戸湿原の見学

「チームタデ原」は、地元九重町の小中学生からなる、湿地保全活動にとりくむグループです。4月20日（土）、タデ原と同じく野焼きがおこなわれている湿地である「猪の瀬戸湿原」の見学に行ってきました。猪の瀬戸は由布岳と鶴見岳の間にある小さな湿原で、一時途絶えていた野焼きを復活させて、サクラソウなどの花が増えてきたそうです。人の手を入れない自然保護のほかに、人がかかわることで守られる自然保護もあることを、タデ原とは違う場所で学ぶことができ、有意義な研修になりました。
昼は志高湖でお弁当と散策を楽しみ、帰りには由布岳山ろくでキスミレやエビメアヤメを観察し、楽しい一日でした！

タデ原で野焼きが行われました！

3月23日（土）に泉水山・タデ原湿原で野焼きが行われました。野焼きは春に枯れた草木に火をつけて焼き払い、草原景観を保つために必要な活動です。タデ原は火をつけてからおよそ2時間程度で一面真っ黒な大地になりました。くじゅうファンクラブでは、皆様のご支援で野焼き時に必要な物品の購入を行っています。これからの季節7～8月は、タデ原でたくさんの花を見ることができます。ぜひ遊びに来てください。

牧の戸峠登山ミニレクチャーを実施しました

6月2日（日）くじゅう山開きが久住山山頂で行われました。当日はあいにくの雨でしたが、多くの登山者がつめかけました。くじゅうファンクラブでは牧ノ戸峠登山口にて、登山のルールやマナーの他、久住分かれのトイレの利用方法などについて、登山者の皆様へ呼びかけをおこないました。

オオハンゴンソウ駆除活動に協力しています

6月22日（土）、飯田地区まちづくり協議会主催の「オオハンゴンソウ駆除活動」がおこなわれました。オオハンゴンソウは、環境省から特定外来生物に指定されており、栽培や移動が禁止されている植物です。夏に黄色い花を咲かせ、飯田高原でも生育地を拡大させていて、希少種や地域独特の景観への影響が心配されています。この日は、参加者一人一人の手でオオハンゴンソウを根から掘り取り、茎を切り落として、ゴミ袋に入れて回収しました。なんと36袋も！くじゅうファンクラブスタッフも、チームタデ原のメンバーたちと一緒に汗を流しました。
これからも地域の人たちの地道な活動を支えていきます。

特定外来生物　オオハンゴンソウ▶

登山者の皆様へお願い

牧ノ戸峠から久住山へ向かう途中、「久住分かれ」にあるトイレは、バイオトイレとして微生物による浄化処理が行われていますが、処理能力には限界があります。近年、連休中やミヤマキリシマの時期に、許容範囲を超えた利用があり困っています。山岳トイレとしての特性をご理解のうえ、登山口のトイレを優先してご利用ください。

・久住分かれのトイレは緊急避難用です。「念のため」「とりあえず」といった利用はオーバーユースの原因になりますので、ご遠慮ください。
・維持管理に多大な労力が必要なため、協力金制（100円）としています。
・定期的に清掃を行っていますが、利用者が多い時には清掃がおいつきません。
・水源は雨水と雨生水です。水が流れないときには棒で押し込んでください。
・備え付けのトイレットペーパー以外は使用しないでください。
・ごみは捨てないでください（生活用品含む）。
・登山口の前には必ず登山口のトイレで用をお済ませください。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／事前申込不要（団体の場合）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～12:00に開催しています(8月は土日祝開催)。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。学校などの団体の観察会は、ご相談ください。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一口3,000円／年、団体一口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左端にQRコード記載）をご覧ください。

くじゅうだより2019夏号

発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL & FAX 0973-79-2154
くじゅうファンクラブホームページ：
http://kujufanclub.com/
★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！
https://ja-jp.facebook.com/choujubaruvisitor/
★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
http://kujufanclub.com/

リレー式 職員からのひとこと

はじめまして。4月から長者原ビジターセンターで働いています伊東と申します。これまで七朱(建った環境で働いていますので、日々勉強の毎日です。ミヤマキリシマの時期が終わり、本格的な夏山シーズンになりました。夏山登山は楽しく、くじゅう連山の自然を満喫できますが、常に危険と隣り合わせだと思います。「安全第一」でくじゅうの自然を思う存分満喫して、心身ともにリフレッシュしていただければ幸いです。（伊東）

長者原ビジターセンター＆男池へは

長者原ビジターセンターまで車で、由布院から49分/九重IC から35分（ビジターセンターから男池まで30分）

夏のひんやりトレッキングコース ぐるっと1周約1時間
男池湧水～名水の滝

標高850m

くじゅう連山の東側に位置する黒岳は、高塚山・天狗岩・前岳などのピークからなる山で、山腹一帯にブナやカエデの落葉広葉樹林が発達した、くじゅう連山で唯一の原生林地帯です。この黒岳山麓には、「日本名水百選」にも選ばれた「男池湧水」があります。
今回は、この男池湧水から名水の滝までのトレッキングコース（全長約1.4㎞）を紹介します。このコースは、男池湧水群から湧き出た清流沿いを歩くルートで、森の中は涼しい風が通り抜けていきます。マイナスイオンをたっぷり浴びながら、散策してみませんか？

01 男池入口

男池入口に清掃員詰所があり、ここで清掃協力金100円を払って入場する。遊歩道を進むにしたがって清流が見えてくる。
（男池清掃員詰所　TEL:097-585-1920）

02 男池湧水

環境省日本名水100選ダヨ

男池湧水は1日に約2万トンの湧出量を誇る湧水である。水温は年間を通して12℃程度と変わらない。男池湧水は、周辺の山に降った雨が約1年かけてゆっくりと地下を通り、湧出してきたものと考えられている。

湧水のほとりで降りて、水を飲むことができる。美しい池のほとりでほっと一息。

03 ケヤキの大木

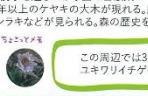
男池湧水を過ぎてから上の台散策コースに少し入ると、樹齢400年以上のケヤキの大木が現れる。周辺にはコナラやカエデ類、シラキなどが見られる。森の歴史を感じられるスポット。

急坂は続くが滝まで遊歩道が整備されている。

散策コース周辺で8月に見られる花

ハガクレツリフネ　フシグロセンノウ　ヤマホトトギス　ソバナ

04 キツネノカミソリの群生地



この周辺では3月下旬に春一番に咲くユキワリイチゲの花が見られる。

Check! 季節で表情が変わる森

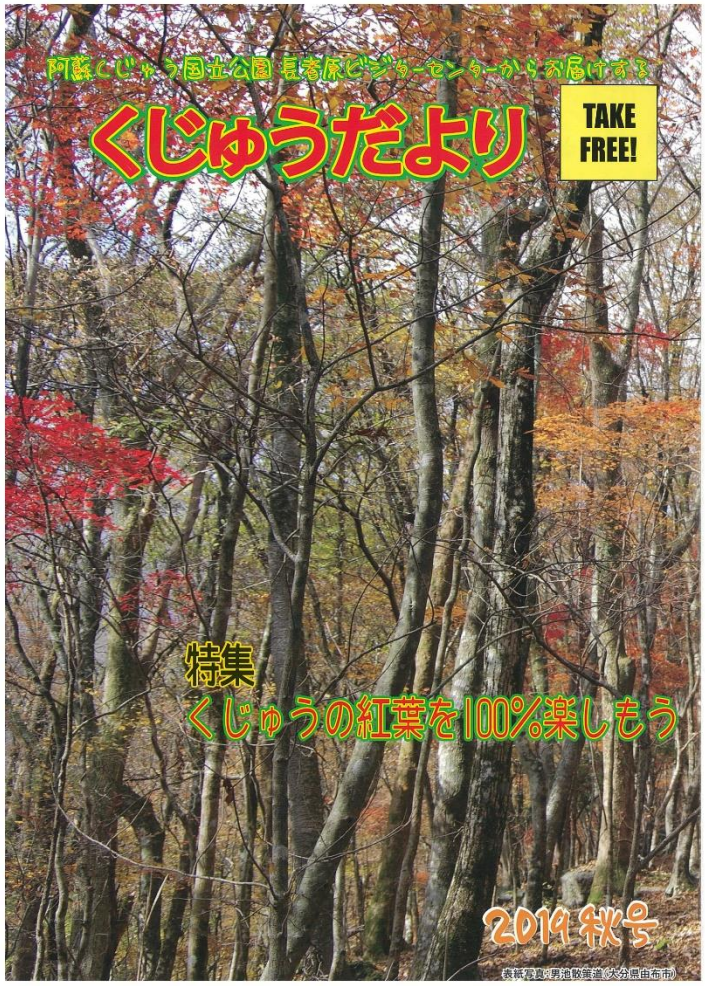
新緑の時期は4月下旬～5月中旬。一面の緑がまぶしい。同時期ツクシシャクナゲの花も開花する。

紅葉の時期は黒岳山頂帯が10月中旬頃から、男池周辺は11月上旬頃に最盛期を迎える。

7月下旬から8月中旬にかけて、キツネノカミソリの花がたくさん見られる。この散策道のハイライト。

05 名水の滝

名水の滝に到着！滝の迫力を目の前で感じることができる。川には飛び石があり、渡ることができる（増水時は渡渉不可、滑りやすいので注意。）。
帰りは県道621号線に出るほうが早いが、道が狭いため、車には十分気を付けよう。



くじゅうファンクラブ活動情報

＊平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

皆さまのご支援で、こんな活動をしています。 教育・普及啓発 自然環境保全・調査 登山道等維持管理

チームタデ原　坊ガツルキャンプ！

くじゅうの池元九重町の小中学生からなる「チームタデ原」。8月7～8日に、小学4年生から高校生までの13名で、法華院温泉山荘のバンガローに泊まっていろいろな学習をしました。北千里では山からの水流に足をひたし、硫黄の魂を見つけ、モウセンゴケや粘土層も観察するなど盛りだくさん！なかなかできない貴重な体験でした。

「山のトイレをきれいに使い隊運動」

7月31日、大分県自然保護推進室の主催で、「山のトイレをキレイに使い隊運動」がおこなわれました。登山者に水の入ったペットボトルを運んでもらい、その水を使って、久住分れのトイレを掃除するというものです。山のトイレは、水がないこともあって日ごろなかなか掃除がいきとどきませんが、この日は念入りに掃除ができました！ご協力ありがとうございました。なお、トイレの使用については右下の「お願い」もご覧ください。

タデ原の野焼きの準備が着々と進んでいます！

9月3日・9月11日に九重・飯田高原観光協会の公私隊主催で、タデ原の防火線切りが行われました。これは春の野焼き時の延焼を防止するために、山ぎわの草を幅8m程度刈る作業です。防火線切りを行う範囲は数キロメートルにもわたり、とても大変な作業です。この後周りの草が青いうちに、切った草を焼く「防火線焼き」が行われる予定です。春の野焼きに向けて、準備が着々と進んでいます！くじゅうファンクラブでは、引き続き、地域の自然環境保全活動に協力していきます。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（雨人の場合）＞

九重の自然を守る会のボランティアガイドによる人気のイベント。毎週日曜・祝日10:00～12:00に開催しています(12月～2月は場週)。参加希望の方は10時までに、直接ビジターセンターへお越しください。学校などの団体の観察会は、平日も対応します。ご相談ください。

自然公園クリーン作戦&登山口等の草刈り作業

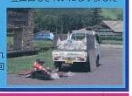
8月2日、長者原ビジターセンターのある九重町飯田高原一帯で「自然公園クリーン作戦」が行われました。この活動は毎年8月の第1週に、国立公園で一斉に美化清掃活動を行うものです。今年も地元の各観光協会や建設協会などから、200名近くが参加しました。また同日、九重飯田高原観光協会の公私隊により、牧ノ戸峠登山口周辺と牧ノ戸峠～長者原までの九州自然歩道沿いの草刈り作業が行われました。

皆様からいただいたくじゅうファンクラブへのご支援は、ゴミ拾い時の軍手や活動時のお茶の提供に利用させていただいています。

登山口もきれいになりました

◀それぞれの持ち場に分かれてゴミを拾いました。

▶軽トラに積みきれないほどのゴミを回収しました。



登山者の皆様へ引き続きお願いします

牧ノ戸峠から久住山へ向かう途中、「久住分かれ」にあるトイレは、バイオトイレとして微生物による浄化処理が行われていますが、処理能力には限界があります。近年、連休中やミヤマキリシマの時期に、許容範囲を超えた利用があり困っています。山岳トイレとしての特性をご理解のうえ、登山口のトイレを優先してご利用ください。

- 久住分かれのトイレは緊急避難用です。「念のため」「とりあえず」といった利用はオーバーユースの原因になりますので、ご遠慮ください。
- 維持管理に多大な労力が必要なため、協力金制(100円)としています。
- 定期的に清掃を行っていますが、利用者が多い時には清掃がおいつきません。
- 水源は雨水と再生水です。水が流れないときには棒で押し込んでください。
- 備え付けのトイレットペーパー以外は使用しないでください。
- ごみは捨てないでください(生理用品含む)。
- 登山の前には登山口のトイレで用を済ませて、携帯トイレを持参しましょう。

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一口3,000円／年、団体一口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左端にQRコード記載）をご覧ください。

くじゅうだより2019秋号

発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）

879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター

TEL & FAX 0973-79-2154

くじゅうファンクラブホームページ：
http://kujufanclub.com/

★くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！
https://ja-jp.facebook.com/choujabarovisitor/

★活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
http://kujufanclub.com/

リレー式 職員からのひとこと

夏の暑さがやわらぎ、季節は秋へと変わりつつあるくじゅうでは、涼しい毎日が続いています。秋と言えば、やはり紅葉ですよね。緑色だった山肌が、赤や黄色に変わってとてもきれいです。くじゅう連山は紅葉が美しい山が多くあり、その景色をみようと多くの方が登山に、求められる時期でもあります。色鮮やかに染まった山は、ミヤマキリシマの時や夏山とはまた違って素晴らしいです。そんな絵筆な景色が今年もみれたらいいなと思っています☺もちろん秋のタデ原も武山花が咲いていますので散策するのもおすすめです♪〔渡辺〕

長者原ビジターセンターへは

長者原ビジターセンターまで車で、由布院から40分/九重ICから35分

くじゅうの紅葉おすすめスポット！

タデ原湿原は、木道が整備され、秋の景色を眺めながらの散策に最適。湿原から続く森林のコースは、コシアブラやミズナラ、コハウチワカエデなどの色とりどりの紅葉が気軽に楽しめます。【長者原ビジターセンターからすぐ】

タデ原湿原

10月～11月の坊ガツルは一面のススキ野原。風になびく草原の奥に、大船山がそびえたちます。【長者原登山口から徒歩2時間(片道)】

坊ガツル

駐車場から男池を通ってかくし水方面へ向かうと、コハウチワカエデやチドリノキなどの紅葉が圧巻！紅葉のトンネルの中を歩けます。【男池駐車場から徒歩10分、清掃協力金100円が必要】

男池周辺

星生山

星生山の西面の紅葉は西日を受ける午後がおすすめ。ドウダンツツジ類などが燃えるような赤に染まります。沓掛山や扇ケ鼻の手前から眺められます。【牧ノ戸峠登山口から徒歩40～70分(片道)】

扇ケ鼻・ナベ谷

沓掛山を過ぎて左手、扇ケ鼻との間の通称「ナベ谷」は、カエデ類の見事な紅葉が見下ろせます。扇ケ鼻から見る肥前ケ城もおすすめ。【牧ノ戸峠登山口から徒歩30～90分(片道)】

大船山

大船山頂の火口湖「御池(おいけ)」の周りは、ドウダンツツジ類、コミネカエデなどが色づき、まるで日本庭園のようです。くじゅう連山で一番早く紅葉が見ごろを迎えるエリアでもあります。【長者原登山口から徒歩4～5時間、大船山登山バス終点から2～2.5時間(いずれも片道)】

黒岳

黒岳は全山が深い森におおわれ、折々の紅葉が楽しめます。山頂部はもちろん、風穴のまわりのセリグチ谷もおすすめ。【男池登山口から徒歩2～3.5時間、今水登山口から2～3.5時間(いずれも片道)】

ここもおすすめ
三俣山天狗、小鍋を周回するお鉢巡りコースは上級者向き。経験者の同行の上で、迷ったら引き返す計画を立てよう！

ここもおすすめ
吉部登山口から入る「暮雨の滝」は徒歩で約1時間。紅葉と滝のコントラストが絶品です。途中急坂もあるので気をつけて！

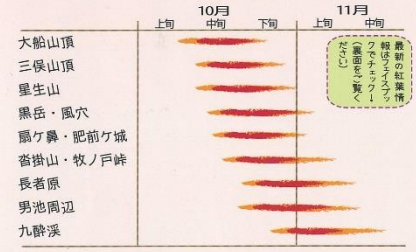
くじゅうの紅葉を100%楽しもう！

くじゅうがいちばん賑わうのは、初夏のミヤマキリシマの時期と秋の紅葉の時期。多くの登山者や観光客が、絶景を求めてやってきます！ 赤や黄色に色づいた木々に埋もれながら森を歩くと、日常を忘れた別世界にいるようです。今年は、植物の名前も調べながら、ワンランク上の紅葉散歩はいかがですか？

紅葉は標高が高いところから始まります。くじゅう連山は東の主峰大船山（1786m）から裾野の男池（800mほど）まで標高差1000mに及ぶため、紅葉の見ごろの時期も、山頂部の「十月中旬」から、山麓の「十一月上旬」まで、長い期間続くんです。

くじゅうの紅葉のスタートは、絶景の火口湖（御池（おいけ））を擁する大船山頂部から。例年だと十月なかばごろに見ごろを迎えます。そして、段原（だんばる）、三俣山山頂部、黒岳などが続き、沓掛（くつかけ）山や風穴のあたりでは十月下旬。さらに長者原や男池周辺では十一月上旬まで楽しめます。このころは、山すその広大な草原でゆれるススキの穂が銀色に輝く時期でもあります。そして十一月なかばには、山頂部ではやくも霧氷や初雪の便りが届きます。

おおよその時期はこんな感じとはいえ、年によって一週間程度は時期がずれるのもやはり紅葉の特徴。また、色づき始めの淡い雰囲気もよければ、登山道に散って足元を染め上げる落ち葉もまたすばらしいものです。「十月なかばから一ケ月の間ならどこかに行けば必ず紅葉が楽しめる」と思うと、ワクワクしますね。ことしは山に登りますか？ ふもとの森や草原を散策しますか？



くじゅうできれいな紅葉を見せるのは、何の木でしょうか？

紅葉と言えばまず思い浮かぶのは「もみじ」の木。これは、正確にはムクロジ科のカエデのなかまです。くじゅうでは、コミネカエデ、コハウチワカエデ、ウリハダカエデ、チドリノキなどが、黄色や赤などそれぞれ独特の色合いで山を染めます。山頂付近からふもとまでひろく分布しますが、特に男池の周辺や黒岳でたくさんの種類が見られます。

くじゅうならではの紅葉といえばドウダンツツジのなかま。シロドウダン、ベニドウダン、ツクシドウダンなど、オレンジから赤に山肌を彩ります。大船山など標高の高いところで群生して特に目立ちます。

独特な紅葉が楽しめるのはニシキギ科の樹木。漢字で「錦木」と書くくらい、秋の美しさは定評があり、ツルウメモドキ、ツリバナなど花も実も風情があります。山中の開けた場所に点在するマユミは、十一月にかけてピンク～赤の実がとても目立ちます。

カエデのなかまの葉の形や紅葉の色合いはさまざま。くじゅうでよく見られるものを6種類紹介しましょう。

右の①は「コハウチワカエデ（小羽団扇楓）」真っ赤に色づくうちわ型のかわいらしい葉が特徴的です。②は「イタヤカエデ（板屋楓）」葉のへりは波打つことはあってものこぎりのようなギザギザがないことが特徴です。黄色っぽい紅葉が多いですね。

中の③は「カジカエデ（梶楓）」カナダの国旗を思い起こさせる端正な形です。黄色く色づきます。④は「コミネカエデ（小峰楓）」その名の通り屋根筋にも多く、濃い赤に紅葉してキレイです。

左の⑤は「チドリノキ（千鳥の木）」「見カエデには見えない形ですが、葉が対生する（向かい合ってつく）ことでわかります。黄色になり、赤くなることはまずありません。左下⑥は「ウリハダカエデ（瓜肌楓）」紅葉は赤から黄色まで、条件によっていろいろ。葉の大きさもいろいろ。

ぜひ全部見つけてみてください！

マユミの赤い実

ドウダンツツジの紅葉

カエデの紅葉

くじゅうファンクラブ活動情報

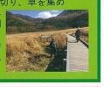
皆さまのご支援で、こんな活動をしています。

教育・普及啓発　自然環境保全・調査　登山道等維持管理

＊平成28年5月31日から、「くじゅう地区管理運営協議会」の通称名称が、「くじゅうファンクラブ」となりました。

タデ原木道沿いの防火帯づくりが行われました！

11月12～13日、来年春にタデ原で行われる草原維持のための野焼きに備えて、木道沿いの防火帯づくりが行われました。この作業は木道が燃えないように、木道の両側を幅約5～8m程度草を切り、草を集めておく大変な重労働です。今年も地元の方々を中心に作業が行われましたが　両日ともにお天気がよく、例年になくスムーズに活動を行うことができました！
ご寄付を始めとする長務からのご支援は、草原を維持するための一連の野焼き活動に使用する道具等の購入に充てさせていただいております。



チームタデ原　草寄せ作業とコケの観察

12月1日、タデ原をフィールドに活動する小中学生「チームタデ原」のメンバーで、タデ原の防火帯の草寄せ作業とコケの観察会をおこないました。防火帯の草寄せは、木道に火が燃え移らないために大切な作業ですが、何といっても重労働！レーキで草を寄せること1時間、汗をかきながら予定の作業を終えました。
その後はタデ原のコケ植物についてじっくり観察です。ふだんは目に入っても気にもとめないコケ、でもその美しさと多様さに一度気がつくと、時間も忘れて見入ってしまいます。肉眼で見たり、ルーペや顕微鏡で見たりと、なかなかの盛り上がりを見せる観察会になりました。オオミズゴケとヒメミズゴケの区別もできましたよ！

大分県山岳遭難対策協議会　登山道整備活動

10月23日、大分県警山岳遭難対策業議会による、くじゅう連山での山岳訓練と登山道整備が行われました。登山道整備では、長者原から雨ヶ池までのルートに杭を打ち込みながら新しいロープに張り替えをし、これまでの古いロープは撤去しました。また蛍光テープの印付けなども行いました。くじゅう連山で遭難が起きたときに1番多いのが道迷いです。地図をみてルートの確認をしながら歩きましょう。また下山時刻なども考えて無理なく登山を楽しみましょう。

タデ原の自然観察会

＜参加費無料／事前申込不要（個人の場合）＞

九重の自然を守る会による人気のイベント。毎週日曜日・祝日10：00～12：00に開催しています(8月は土日開催)。参加希望の方は10時までに長後ビジターセンターへお越しください。学校などの団体の観察会は、ご相談ください。

阿蘇くじゅう国立公園・タデ原レクチャー

＜参加費無料／要予約（団体向け）＞

学校などの団体向けプログラム。国立公園の概要やタデ原湿原についてなどのレクチャーを15分～30分程度で行います。お気軽にご相談ください。

玖珠美山高校登山道整備活動

11月11日今年も地元、玖珠美山高校地域産業課3年生(25名)　および多数の関係機関の方々と、長者原～諏崎守越間の登山道（坊原）約500mの区間において、登山道の保全整備活動を行いました(路線管理者：大分県)。
この活動は、平成24年から玖珠美山高校の前身である玖珠農業高校3年生の卒業記念作業として始まったもので、毎年阿蘇くじゅう国立公園くじゅう地域の環境保全活動を行っているものです。今回作業を行った路線は、昨年同高校と登山道保全整備活動をした続きの路線で、土壌の浸食が激しく、登山道もカヤ等でおおわれていて、滑り易く歩きにくいところでした。
作業としては登山道に土留めの板を入れたり、ササ刈りとロープの張替えを行いました。作業前に比べると、登山道が大変歩きやすくなり、見違えるようになりました。この日は天気が悪く、寒い中での作業となりましたが、無事に終える事が出来ました。玖珠美山高校の皆様ならびに参加された多数の関係機関の皆様、ありがとうございました。

牧ノ戸峠登山ミニレクチャー

紅葉が見ごろの11月3日、朝7時から牧ノ戸峠レストハウスの一角をお借りして、登山者のみなさんに登山届の提出および遭難事故未然防止対策などを呼びかけました。多くの登山者のみなさんに賛同していただき登山届の提出をしていただきました。楽しい登山をするうえで遭難事故はあってはなりません。そのためにも余裕のある登山計画や登山に適した服装、装備など基本的な事柄を守って、くじゅうの山々を満喫していただきたいと思います。朝早くからレクチャーに参加してくださった関係者の皆様ありがとうございました。

くじゅうファンクラブのＨＰがリニューアル!!

くじゅうファンクラブホームページ内に、新たに当ファンクラブが運営する長者原ビジターセンターの紹介ページや、くじゅうの歩き方がダウンロードできるサイトができました！ぜひとぐご覧ください！
（http://kujufanclub.com/　左下のQRコードからも読み取れます。）

くじゅうファンクラブでは、上記のような教育普及・啓発活動、自然環境保全・調査活動、登山道等管理活動を実施しています。活動に賛同してくださる賛助会員（個人一口3,000円／年、団体一口10,000円／年）や寄付を募集しています。賛助会員の方には、会員証の発行のほか、缶バッジのプレゼント・お便りの送付などの特典を用意しています。詳しくはくじゅうファンクラブホームページ（左下にQRコード記載）をご覧ください。

【寄付者のご紹介（2019年秋）】
日本野鳥の会北九州支部様
朝日キャンプリーダー会ＯＢ会様
株式会社近畿日本ツーリスト九州大分支店様
熊本電気鉄道株式会社様
【ご支援ありがとうございました】

くじゅうだより 2019冬号

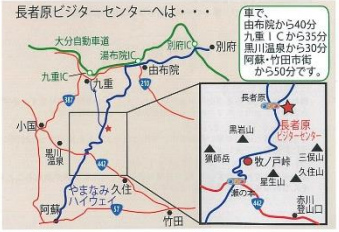
発行元：くじゅうファンクラブ
（くじゅう地区管理運営協議会）
879-4911 大分県玖珠郡九重町大字田野255-33
長者原ビジターセンター
TEL. & FAX 0973-79-2154
くじゅうファンクラブホームページ：
http://kujufanclub.com/
＊くじゅうの最新の自然情報などはフェイスブックで！
https://ja-ja.facebook.com/choujabaruvisitor/
＊活動報告やくじゅうの基本情報などはくじゅうファンクラブホームページで！
http://kujufanclub.com/

リレー式 職員からのひとこと

みなさん、またくじゅうにきがやってきました！冬は雪が積もったり寒かったりして何かと憂鬱なこともありますね。でも、山の景色はとってもキレイです！「雪は山を立派に見せる」という言葉が『日本百名山』の中にもあります。真っ白な雪化粧のくじゅうを眺めるだけでも、なんだかうれしい気持ちになります。長者原は家族での雪あそびにもぴったり。冷えた後はビジターセンターのストーブであったまれますよ！ぜひ遊びにきてください。（大島）

長者原ビジターセンターへは・・・

車で、由布院から40分　九重ＩＣから35分　黒川温泉から30分　阿蘇・竹田市街から50分です。



暮雨の滝

新緑（5月）

紅葉（11月上旬）

春夏秋冬

暮雨の滝は、春から夏にかけて新緑の景色が広がり、秋には木々が赤や黄色に色づき、冬は氷の世界となるなど違う景色となり、一年を通して楽しめる場所になっています。長時間の登山が苦手な方や親子で登山に挑戦したいと思っている人はきれいな自然の景色に癒されながら、歩いてみてはいかがでしょうか。

分岐から急な坂を下ったゴールにはこんな景色が広がっています!!暮雨の滝は坊ガツルから飯田高原へ流れ下る鳴子川にかかります。落差は約7m、幅約15mのこじんまりとした滝です。雪が沢山降って気温の低い日が続くと、滝が完全に凍ってしまうこともあります。滝を眺めながら暖かい飲み物を片手にしばしの休憩としましょう。
滝の付近は長く伸びたつららや太いつららなど、様々な形をした氷をみることができます。これも冬ならではの自然が造り出す芸術品ですね。

冬の山をゆっくり歩いてみよう！

片道約1時間

吉部登山口（よしぶ）～暮雨の滝（くらさめ）

940m　1040m

冬のくじゅう連山は雪や霧氷に覆われて銀世界となります。1,700m級の山々が連なるこの地域の特徴とも言えます。
冬の登山は夏や秋の時期とは持ち物や装備も変わってきます。またしっかりと防寒対策をしておかないと、強い風が吹いたりすることもあります。初めて行こうと思う人は身構えてしまうかもしれませんが、しっかりと準備をすれば楽しめるコースがくじゅうにはあります。その1つが吉部登山口から坊ガツルへ行く途中にある『暮雨の滝』への登山コースです。
今回のお便りでは、登山をしながら冬だからこそみられる、くじゅうの美しい景色を紹介します！くじゅうで初めての冬登山に踏み出す参考にしてください。

01 吉部登山口 940m

登山口の手前に約100台収容できる有料の駐車場があります。駐車場の簡易トイレでトイレを済ませるか、携帯トイレを準備して山に入りましょう。また、入り口には登山届ポストもあるので、記入することも忘れずに！
準備が整ったらゆっくり歩き始めましょう。

02 最初の登りを超えて

歩き始めると、最初は急な登りがあります。その後は比較的なだらかな道が続きます。最初の登りはザクザクと雪の中を踏みしめる音を聞きながら、歩きましょう。冬はすれ違う登山者の方が少ないですが、澄んだ空気の中で自然を体感できますよ。

03 標識を確認して

冬の登山は雪が積もっているので登山道がわかりにくくなります。
道標や踏み跡を見失わないようにこまめに地図などで位置を確認することが大切です。
暮雨の滝へは左の写真の道標が目印となります。見逃さないようにしましょう！

～冬の登山の心得～

持ち物編

コンパス
雪が積もると登山道がわかりにくいです。そんなとき方向を確認するためにコンパスがあると便利です。

登山地図
コンパスと同様に地図は必須アイテムです。最近は携帯のアプリ等で場所の確認をすることができますが、充電が切れたり、電波が入らない場合もあります。その時に自分が今どのあたりにいるのか正確に把握するためにも紙の地図は必ず持ちましょう。

軽アイゼン
軽アイゼンは４本～６本の滑り止めの爪のことです。登山靴の裏に付けます。積雪が少なくても、踏み固められた道は凍っていることがあります。初めて装着して歩く場合、慣れるまで注意が必要ですが、アイゼンを付けることで歩きやすくなります。

※その他：スパッツ、厚手の手袋、防寒着、暖かい飲み物など…。

行動編

①登山届を出すことを忘れずに。
慣れた場所だからと登山届を出さないと、もしも！の時に困ります。必ず書いてから入山しましょう。スマホからも登山届の記入・提出は可能です。

②余裕を持った計画を。
冬は日が暮れるのが早い時期です。下山は日没よりも余裕を持った時間に降りれるように計画を立てましょう。

③天候が悪いときは無理をしない。
山の天気は変わりやすいです。1日晴れる予報でも急に天気が崩れることもあります。そんな時は無理せず早めに引き返すことも必要です。

⑤自然情報の提供

・植物の開花や紅葉の進み具合を調べ、「自然情報」として館内に掲示するとともに、メーリングリスト登録者および近隣の観光案内所や施設に随時配布した。

・今年度作成した自然情報は次の通り。

タデ原自然情報：4～10 月に月 2 回、計 13 回

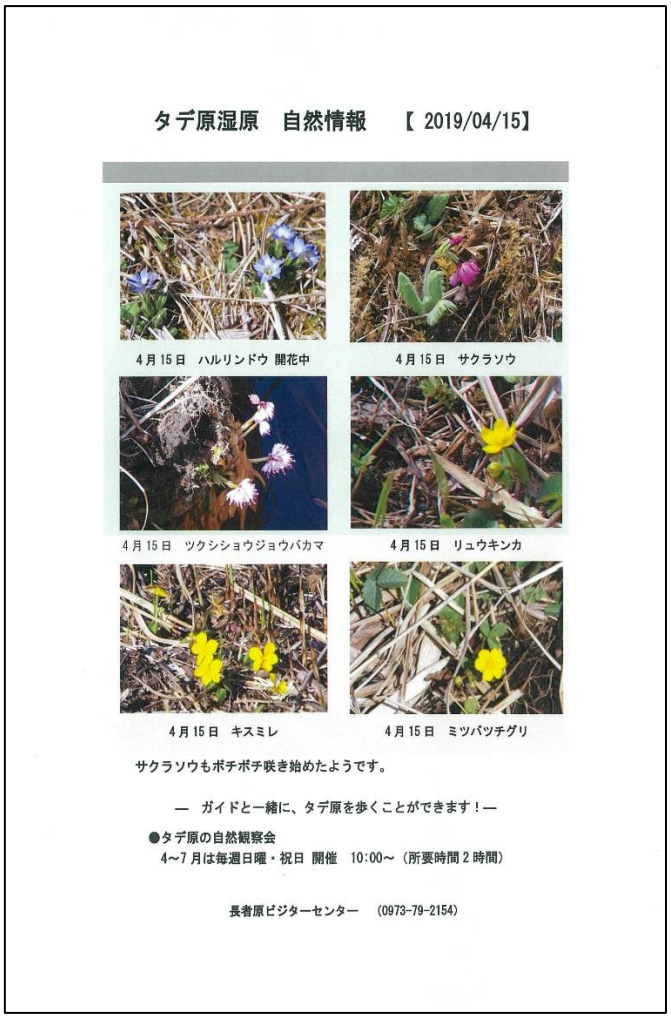
ツクシシャクナゲ開花情報：4～5 月に 3 回

ミヤマキリシマ開花情報：5～6 月に 7 回

紅葉情報：10～11 月に 10 回

マンサク開花情報：2～3 月に 3 回

・タデ原やくじゅう連山を訪れる人にとって役に立つ情報源となっている。今後もきめ細かな情報提供を心掛けながら継続していきたい。



タデ原湿原　自然情報　【 2019/04/15】

4月15日　ハルリンドウ 開花中

4月15日　サクラソウ

4月15日　ツクシショウジョウバカマ

4月15日　リュウキンカ

4月15日　キスミレ

4月15日　ミツバツチグリ

サクラソウもポチポチ咲き始めたようです。

― ガイドと一緒に、タデ原を歩くことができます！―

●タデ原の自然観察会
4～7 月は毎週日曜・祝日 開催　10:00～（所要時間 2 時間）

長者原ビジターセンター　(0973-79-2154)

令和元年６月１２日
作成：くじゅう地区管理運営協議会

ミヤマキリシマ開花情報

調査日	場所	開花状態
6月12日	★三俣山本峰 (1744.3m)	見ごろ
6月11日	★扇ケ鼻 (1698m)	見ごろ
6月11日	北大船山 (1706m)	見ごろ
6月11日	大船山 (1786.3m)	見ごろ
6月11日	久住山 (1786.5m)	見ごろ

★は登山者情報

今、1700ｍを超える山々は見ごろになっています。先週の暴風雨により花が痛んでますが、その後咲いた花は大丈夫のようです。

今週から来週にかけて、くじゅう山のミヤマキリシマは終わりそうです。今週末は天気がいまいちのようですが、日曜日から回復しそうですので、今シーズン最後のミヤマキリシマを楽しんではいかがですか。最新情報はFacebookをチェックしてみてください。

https://www.facebook.com/choujabaruvisitor

6/11　北大船山山頂付近（見ごろ）

6/11　大船山（見ごろ）

6/11　久住山（見ごろ）

２．環境教育活動

「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」

・平成 27 年度にくじゅう地域で開催された KODOMO ラムサールをきっかけに、地元の小中学生で結成された自然保護活動グループ。現在のメンバーは中学生 3 名、小学生 10 名の計 13 名（今年度 4 名加入）。

・子どもが主体となった活動グループを目標とし、子どもたち自身で活動を計画・実行・振り返りをおこなっている。その活動のサポートを当協議会がおこなった。

・今年度は 4 月の猪の瀬戸湿原の見学から始まり、夏にはタデ原に咲く花のスケッチに挑戦したり、坊ガツルへキャンプに行くなど積極的に活動に取り組んだ。また例年夏におこなうキッズガイドを、今年は秋の時期におこない、訪れた人たちへ夏の時期とはまた違う魅力を伝えることができた。中学生は大分大学で開催された自然環境研究発表会でチームタデ原の活動を話す事ができ、地域の人だけでなく多くの方へ、チームタデ原への関心を持ってもらう事ができて有意義な活動になった。

・2 月の終わりに東京で開催予定の KODOMO ラムサール in 葛西海浜公園への参加や 3 月に行われるタデ原の野焼きの見学については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

令和元年度　「チームタデ原～ヒゴタイ子を守る会～」活動一覧

開催日		概要
4月20日	土	猪の瀬戸湿原見学
5月19日	日	年間計画の話し合い
6月22日	土	オオハンゴウソウ駆除活動
7月13日	土	タデ原の植物を知ろう
8月7日～8日	水～木	坊ガツルキャンプ
10月6日	日	秋のタデ原キッズガイド
10月19日	土	ふるさと祭り活動発表(中学生参加)
12月1日	日	草よせとタデ原のコケの観察
12月21日	土	大分県自然環境研究発表会(中学生参加)
2月8日	土	バードウォッチングと１年間のまとめ

猪の瀬戸湿原見学の様子

夏に咲く花のスケッチをする様子

秋のキッズガイドの様子

タデ原に生えるコケを観察する様子

総合学習支援活動

九重町及び竹田市で総合学習の支援活動を受け入れている。九重町立飯田小学校では、総合学習で各学年ともタデ原について学んでおり、講師の派遣やガイドの支援などを実施した。

○九重町立飯田小学校 6 年生　7 月 28 日、8 月 4 日

6 年生はタデ原についての学習の集大成として、夏休み期間中に一般のお客さんを案内するタデ原のキッズガイドをすることを目的に、伝えたいことやガイドの心得について学び、本番では一般のお客さんを案内する支援活動を行った。

○九重町立飯田小学校 5 年生　9 月 19 日

「身近な環境問題」をテーマに、タデ原の見学をしながら身近で感じる環境問題について授業をおこなった。子ども達からの質問にも答えた。

○九重町立ここのえ緑陽中学校 3 年生

・10 月 3 日・4 日　職場体験学習の受け入れ（1 名）

長者原ビジターセンター業務の体験ということで、受付業務や展示作成業務の体験を行った。

・2 月 28 日　「九重町をより魅力ある町にするためにはどうしたらよいだろうか」（62 名）

グループに分かれて九重町の提言を検討する学習で、「自然環境・観光」分野の助言者として出席した。それまでに生徒が調べたことを元に、九重町の抱える課題や改善策について話し合った。

Ⅲ．自然環境保全・調査活動

１．自然環境保全活動

(1) オオハンゴンソウの駆除活動

特定外来生物であるオオハンゴンソウがタデ原周辺でも増殖し、問題になっている。今年もくじゅう地区管理運営協議会の会員等と連携しながら、タデ原湿原と飯田高原周辺のオオハンゴンソウの駆除活動を実施した。

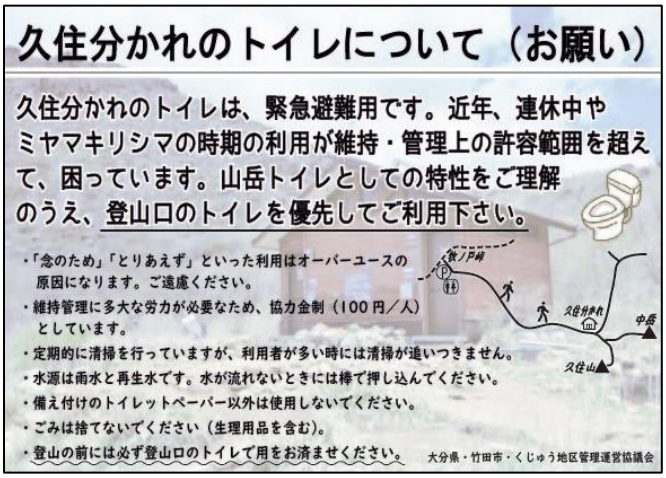
6 月 22 日　オオハンゴンソウ駆除　飯田地区まちづくり協議会主催【職員が参加】
8 月 4 日　オオハンゴンソウ駆除　九重の自然を守る会主催【職員が参加】
8 月 31 日　オオハンゴンソウ駆除　九重の自然を守る会主催【職員が参加】
10 月 6 日　オオハンゴンソウ駆除　MS&AD ホールディングス

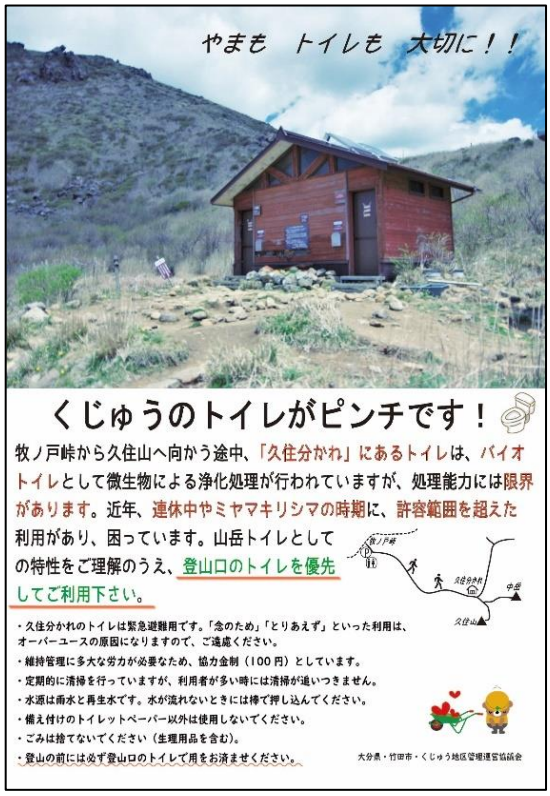
その他随時、他団体によるオオハンゴンソウ駆除活動実施時に道具等の貸出を行った。

(2) 美化清掃活動等

4 月末からの 10 連休のゴールデンウィークからミヤマキリシマの開花時期である 6 月中旬にかけて、久住分かれにある山岳トイレのオーバーユースが問題となったため、トイレの適正利用を普及啓発するチラシやポスターを作成して関係機関に配布したほか、ポスターも作成して牧ノ戸登山口などに掲示を行った。

また、7 月 31 日に大分県主催「山のトイレをキレイに使い隊運動」に参加し、久住分かれトイレ美化清掃活動への協力を呼びかけた。8 月 2 日には自然公園クリーン作戦に協力し、道具の貸し出しや軍手・お茶の提供を行った。





(3) 野焼き活動

くじゅう地区では、草原景観の維持と希少種の保護などを目的に各地で野焼きが実行されている。協議会としては、飯田高原野焼き実行委員会の構成メンバーとして、次の野焼き活動の実施を支援した。

・令和 2 年 3 月 22 日　大将軍・やまなみハイウェイ沿い野焼き～職員が参加、用具貸出、飲料提供

・令和 2 年 3 月 25 日　一目山野焼き～用具貸出

大将軍・やまなみハイウェイ沿い野焼きの様子

(4) 九重町自然環境保全推進委員会

九重町の自然環境保全推進委員会に委員として 11 月 29 日、1 月 27 日に参加し、生物多様性ここのえ戦略の推進や、戦略に基づいた啓発事業の策定に協力した。

(5) 生態系維持回復事業検討会議

環境省主催の「生態系維持回復事業検討会議」（12 月 24 日）に委員として参加し、くじゅう地域の自然環境保全のあり方について検討した。

２．調査活動

(1) モニタリングサイト 1000 里地調査

・九重の自然を守る会が主催のタデ原の植物相の調査（3～11 月に毎月 1 回実施）（環境省のモニタリングサイト 1000 里地調査に登録 ）の実施に協力した。

(2) 長者原地区植物保全協議会

大分県のやまなみハイウェイ拡幅工事に伴う長者原地区植物保全協議会に、委員として 5 月 15 日、9 月 3 日、9 月 30 日、2 月 19 日に参加し、やまなみハイウェイ沿線の植物相のモニタリング調査及び工事方法について検討する会議に出席した。

(3) 野焼き範囲調査活動

久住高原みちくさ案内人倶楽部が主体的に実施している、久住高原の野焼き範囲の調査活動（11 月 13 日）に協力した。

Ⅳ．登山道等管理活動

１．登山道保全活動

(1) 登山道整備活動

・令和元年 10 月 23 日、大分県遭難防止対策協議会主催の長者原～雨ケ池ルートの登山道整備活動に参加し、迷いやすい場所などに新たにロープを張り、遭難防止対策を図った。

・令和元年 11 月 11 日（月）、玖珠美山高校 3 年生の卒業記念として、くじゅう地区管理運営協議会会員と協力し、長者原～諏峨守越間の登山道保全整備活動を行った。階段補修、ロープ張り替え、藪掃いの担当に分かれ、会員が作業指導を行った。

当日は曇りの天候で風もあり寒い中の作業だったが、生徒たちは、「登山道が補修され、登りやすくなった。」「寒かったけど、きれいになったので嬉しい」等の感想があった。今後も会員の協力を得ながら登山道整備活動を継続していきたい。

(2) 道標・山頂標柱交換

・登山道の老朽化している道標について、新たに 3 基の補修・交換を行った。

本年度交換した道標および山頂標柱は次の通り。交換の際にはいずれも英語表記を併記し、外国人登山者にもわかりやすくなるようにした。

ア　御池分岐（久住山・中岳方面分岐）

イ　稲星越分岐（稲星山・中岳・白口岳分岐）

ウ　ソババッケ分岐（大戸越・風穴・男池登山口分岐）

道標交換作業の様子

新しくなった道標

(3) 登山道についての情報収集・情報提供

・登山者から寄せられた登山道についての情報を集約し、環境省、林野庁、大分県等の関係機関に提供した。寄せられた情報は、倒木、スズメバチ、道標についての要望等である。また、登山道の状況については、一般の登山者などから主に電話で多くの問い合わせがあり、これらについても丁寧な対応を心掛けた。

2．長者原周辺の美化清掃活動

(1) 清掃業務

・長者原公衆トイレについて、職員による日常清掃を行った。ミヤマキリシマの時期・夏休み中・紅葉の時期などには１日に２回点検や清掃を行うなど対応を強化し、常に清潔なトイレが保たれるよう努めた。また、消臭剤を各便器に設置し、悪臭の改善に努めた。

トイレの日常清掃業務

トイレ床のブラシがけ

便器の清掃

(2) 園地管理業務等

・長者原園地、駐車場及びその周辺において、ゴミ拾い等の清掃活動を随時実施した。また、タデ原周辺の自然歩道脇の草刈りを随時実施した。

・長者原園地周辺の落ち葉の清掃を行った。

・積雪時には駐車場の白線が見えなくなるので、通路にコーンを設置して利用者の混乱を防いだ。

・牧ノ戸峠駐車場および登山口においては、大分県による管理を補助する形で、随時ゴミ拾いを行った。

園地のゴミ拾い

四阿にたまった落ち葉掃除

(3) タデ原湿原木道の保守業務

・3 月末に実施されるタデ原の野焼きに備え、タデ原湿原木道が延焼しないよう、11 月 12 日、13 日に木道の周囲の防火線切りおよび草寄せの作業を行った。

・タデ原湿原木道を随時巡回し、異常個所がないかどうか確認するともに、ごみ拾いを行った。

防火線切り

草よせ

Ⅴ．その他

1．くじゅうファンクラブ賛助会員・寄付制度

(1) 賛助会員制度

・パンフレットの配布等でくじゅうファンクラブの活動に賛同する賛助会員を募った。

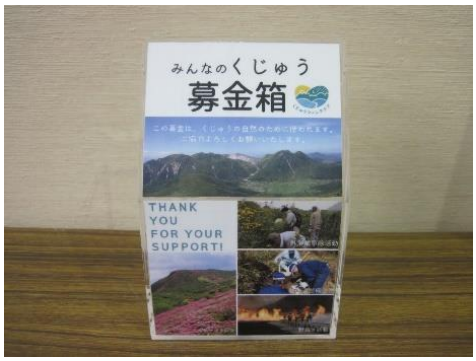
・賛助会員数　個人会員：52 件、団体会員：8 件

（参考：平成 30 年度賛助会員　個人会員 51 件　団体会員 6 件）

(2) くじゅうファンクラブ募金箱の設置

・くじゅう地区管理運営協議会の会員および賛助会員の関係施設のうち、賛同していただいた施設に募金箱を設置し、協議会活動への支援を募った。募金総額は 135,192 円となった。

・くじゅう連山の環境保全を呼びかけるチラシを配布し、寄付を募った。個人からの寄付が 3 件、団体からの寄付が 10 件あり、寄付金の合計は 266,644 円となった。



2．くじゅう連山の登山道の管理についての会議開催

ア　くじゅう連山登山道情報共有会議（8 月 29 日 10:00～12:00）

くじゅう連山における登山者の安全を確保するために、登山道の管理上の課題や問題点を抽出し、今後の対策の方向性について協議した。

参加者：大分森林管理署／大分西部森林管理署／大分県山岳遭難対策協議会（大分県警察本部）／環境省くじゅう管理官事務所／大分県／竹田市／九重町／九重・飯田高原観光協会／法華院温泉山荘／九重の自然を守る会／NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ／一般財団法人九電みらい財団（NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部は欠席）

イ　くじゅう地区管理運営協議会幹事会（9 月 6 日, 11 月 26 日, ＊3 月 27 日）＊新型コロナの影響で書面会議

8 月に実施したくじゅう連山登山道情報共有会議を受けて、くじゅう地区管理運営協議会の中で登山者の安全を確保するため、くじゅう連山の登山道の管理のあり方について協議した。

3. 阿蘇くじゅう国立公園内のビジターセンターの連携について

ア　情報交換会（4 月 23 日、2 月 21 日　於　阿蘇山上ビジターセンター・自然公園財団阿蘇支部）

平成 31 年 3 月の阿蘇山上ビジターセンターのオープンを契機に、南阿蘇・阿蘇山上・長者原の３つのビジターセンターの現状や連携の在り方について情報交換をおこない、今後も職員の相互訪問や展示の共通化などにおいて連携を深めていくことで一致した。

イ　職員訪問

9 月 2 日　職員（渡辺）が南阿蘇および阿蘇山上ビジターセンターを訪問し、展示の見学や情報交換をおこなった。

1 月 10 日　職員（伊東）が南阿蘇および阿蘇山上ビジターセンターおよび阿蘇草原保全活動センターを訪問し、展示の見学や情報交換をおこなった。

ウ　案内展示の共通化

各ビジターセンターを含む広域の案内展示について、共通のパネルを作成して設置できないか議論を行い、原案を作成して検討した。来年度も引き続き検討を行い、展示につなげる予定である。

4. 職員研修実績

①　普通救命講習

開催日時：平成 31 年 4 月 22 日　　参加者：大島、伊東、渡辺

概要：AED の使い方や、応急処置などの普通救命講習を受講したもの。

②　モニタリングサイト 1000 里地調査　調査講習会・全国交流会

開催日時：令和元年 10 月 19 日　　参加者：伊東、渡辺

概要：日本自然保護協会が主催する、大分県九重町で開催されたモニタリングサイト 1000 里地調査講習会及び交流会に参加したもの。

③　第 8 回大分自然環境研究発表会

開催日時：令和元年 12 月 21 日　　参加者：大島、渡辺

概要：大分大学で開催された、大分県内の自然環境の研究についての報告会に参加したもの。

④　藺牟田池・出水ツルフェスタ「ラムサール条約登録に向けたまちづくりシンポジウム」

開催日時：令和 2 年 1 月 31 日～2 月 1 日　　参加者：大島

概要：ラムサール条約登録湿地の藺牟田池および、ラムサール条約登録を目指している出水ツル飛来地を視察するとともに、出水ツルフェスタの一環として開催される「ラムサール条約登録に向けたまちづくりシンポジウム」に出席し、九州内の湿地間における今後の連携の可能性について検討したもの。

⑤　伐木等の業務に係る特別教育

開催日時：令和 2 年 2 月 12 日～13 日　　参加者：大島

概要：チェーンソーの使用方法や点検・整備・法令に関する講習を受講したもの。

その他、2 月～3 月に研修を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止とした。

5. 新聞掲載記事

山のトイレをキレイに

くじゅう連山でマナー啓発

くじゅう連山のトイレマナー向上を図る「第3回山のトイレをキレイに使い隊運動」が7月31日、九重町の牧ノ戸峠登山口などであった。県自然保護推進室の主催。県や環境省、同町などから10人が参加した。

同登山口でマナー啓発をしながら、登山客に水の入ったペットボトルを手渡し、計20㌔の運搬を依頼。久住山（1787㍍）や中岳（1791㍍）などにつながる「久住分かれ」の避難小屋トイレでスタッフが水を受け取り、約1時間かけて清掃した。

同推進室の橋本昌樹室長は「皆さんが快く協力してくれて感謝している。大切に利用してほしい」と話した。

避難小屋トイレは緊急避難用のもので、雨水を循環させて使用している。洗浄水凍結時（12月～翌3月）は閉鎖となる。県などは登山口のトイレで用を済ませ、登山を開始するよう呼び掛けている。

トイレ清掃用の水を受け取る登山客ら＝九重町

大分合同新聞↑

令和元年 8 月 3 日（土）

大分合同新聞

九重のタデ原湿原 外来植物を駆除

MS&ADグループ

MS&ADインシュアランスグループ（本社・東京都）の三井住友海上火災保険と、あいおいニッセイ同和損保は6日、ラムサール条約に登録されている九重町田野のタデ原湿原で、外来植物の駆除活動をした。

両社の大分支店などから約50人が参加。環境省や同町職員からの指導を受け、特定外来生物に指定されているキク科のオオハンゴンソウの根を抜く作業をした。

同保険大分支店の梅原由香業務課長(50)は「今後も取り組みを続け、自然を残したい」と話した。

グループは2010年度から、ラムサール条約登録湿地を中心に水辺の環境保全活動を展開している。

オオハンゴンソウを駆除

大分合同新聞→

令和元年 10 月 12 日（土）

登山の装備確認を

九重・牧ノ戸で呼び掛け

登山者にマナー向上などを啓発する「登山ミニレクチャー」が3日、九重町湯坪の牧ノ戸峠登山口であった。くじゅう地区管理運営協議会（会長・日野康志九重町長）の主催。

町内田野の長者原ビジターセンターや県警などから10人が参加。くじゅう連山へ向かう登山客に準備の徹底や登山届の提出などを呼び掛けた。

同協議会員でくじゅうネイチャーガイドクラブ代表の増田啓次さん(60)は「ヘッドライトや雨具など基本の装備を確認し、山登りを楽しんでほしい」と話した。

登山届の提出などを呼び掛ける協議会員ら（右側）

↑大分合同新聞

令和元年 11 月 8 日（金）

くじゅう連山で登山道補修作業

玖珠美山高3年生

玖珠町の玖珠美山高地域産業科の3年生25人は11日、九重町から竹田市にまたがるくじゅう連山で登山道の補修作業をした。卒業記念の一環。

九重町田野の長者原ビジターセンターで開会式があり、県自然保護推進室の橋本昌樹室長があいさつ。作業内容などを説明した。

生徒は「九重の自然を守る会」や同センターのスタッフら25人と一緒に登山道へ。5班に分かれ、長者原から諏ヶ峰守越方面へ向かうルート約500㍍で、足場を固める土留め作りやロープの張り替えなどに汗を流した。

生徒は慣れない作業に悪戦苦闘。3年の溝口蓮さん(18)は「登山者に安全に楽しんでもらいたい」と話した。

登山道の補修作業をする玖珠美山高生ら

↑大分合同新聞

令和元年 11 月 15 日（金）

6. 地域の概要

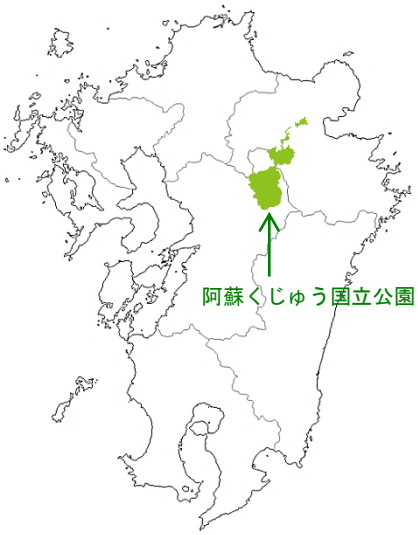
阿蘇くじゅう国立公園は、九州のほぼ中央に位置し、周囲約 100km に及ぶ世界最大級の阿蘇のカルデラ地形と、その北東部に連なるくじゅう火山群、由布岳、鶴見岳からなる、火山地形と草原景観が特徴的な国立公園である。その中でも、くじゅう地域は「九州の屋根」とも呼ばれ、1700 m 級の峰が連なり、初夏はミヤマキリシマの花、秋は紅葉で山々が彩られる。また、山間の坊ガツル湿原・タデ原湿原は、国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録されており、山麓の飯田高原・久住高原などの広大な高原と並び、湿地性・草原性の多様な草花や野鳥・昆虫など多くの動植物の貴重な生育場所となっている。

長者原ビジターセンターは、通称「やまなみハイウェイ」と呼ばれる、阿蘇と別府をつなぐ県道 11 号線沿いの大分県九重町長者原地区にあり、くじゅう地域の拠点施設として利用されている。センターの眼前にはタデ原湿原が広がり、設置された木道を歩くと、四季折々の自然を肌で感じることができる。

くじゅう連山（ミヤマキリシマ開花期）

タデ原湿原

［ 位置図 ］



阿蘇くじゅう国立公園

指定：1934 年（昭和 9 年）

公園面積：72,678ha（くじゅう地域 18,310 ha ）

7. 運営体制

事務局

九重町役場 商工観光・自然環境課内

職員（くじゅう地区管理運営協議会 事務局職員）

種村 英大（たねむら　えいだい）　事務局長
大島 和伸（おおしま　かずのぶ）
伊東 宗喜（いとう　むねき）
渡辺 彩花（わたなべ　あやか）

くじゅう地区管理運営協議会の構成

環境省、大分森林管理署、大分西部森林管理署、大分県、九重町、竹田市、九重の自然を守る会、大分県立社会教育総合センター九重青少年の家、九重・飯田高原観光協会、筋湯温泉観光協会、筌ノ口温泉観光協会、NPO 法人竹田市観光ツーリズム協会、学校法人福岡大学（福岡大学やまなみ荘）、株式会社おおいた観光サービス（オーベルジュ・コスモス）、飯田高原観光株式会社（長者原ヘルスセンター）、やまなみ観光株式会社（レストハウスやまなみ）、有限会社みやま商店、寒の地獄株式会社（寒の地獄旅館）、有限会社星生温泉（九重星生ホテル）、株式会社まきのとコーポレーション（九重観光ホテル）、九重ヒュッテ、株式会社エルランチョ・グランデ、有限会社牧ノ戸峠レストハウス（牧ノ戸売店）、九重町飯田農業協同組合（飯田高原ドライブイン）、有限会社法華院温泉（法華院温泉山荘・法華院温泉別館花山酔）、有限会社くじゅう倶楽部、九重森林公園株式会社（九重森林公園スキー場）、株式会社橋本建設（スパ・グリネス）、株式会社ア・マ・ファソン（オーベルジュ・ア・マ・ファソン）、株式会社星野リゾート（界 阿蘇）、飯田高原デザイン会議、一般財団法人セブン・イレブン記念財団（九重ふるさと自然学校）、NPO 法人久住高原みちくさ案内人倶楽部、有限会社吉武建設（くじゅうやまなみキャンプ村）、NPO 法人くじゅうネイチャーガイドクラブ、株式会社レゾネイト(レゾネイトクラブくじゅう)、一般財団法人九電みらい財団（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会賛助会員

九州電力株式会社（八丁原発電所）、九州林産株式会社林業部、福岡県高等学校体育連盟、有限会社ゆふいん道の駅(道の駅ゆふいん)、公益社団法人ツーリズムおおいた、一般財団法人久住やすらぎ観光公社（国民宿舎久住高原荘）、株式会社花公園（くじゅう花公園）、九重町観光協会（敬称略・順不同）

くじゅう地区管理運営協議会(くじゅうファンクラブ)
【 事務局 】九重町役場商工観光・自然環境課
【 事務所 】長者原ビジターセンター
【 所在地 】〒879-4911
大分県玖珠郡九重町大字田野 255－33
【 電　話 】0973－79－2154
【ホームページ】http://kujufanclub.com/
【Facebook ページ】http://www.facebook.com/choujabaruvisitor/

長者原ビジターセンター
【住所・電話】上記に同じ
【開館時間】9:00～16:00（5～10 月は 9:00～17:00）
【 休館日 】年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）のみ
【 入館料 】無料

発　行 ／ 令和 2 年 3 月 31 日